

令和6年度

地域連携事業報告書

地域教育実践研究センター



学校法人福原学園
九州女子大学・九州女子短期大学

目 次

第1章 大学における地域連携について

I. 大学が地域連携する意味	2
II. 組織と業務内容	3
1. 組織	
2. 業務内容	
3. 外部評価	
III. SDGsの推進について	4
1. SDGsとは	
2. 本学の取り組み	
IV. 令和6年度の地域連携事業実績一覧	5

第2章 令和6年度の地域連携事業

I. 芦屋町との包括的連携事業	8
1. スーパーキャラバン隊による模擬保育	
2. 地域交流サロンにおける公開講座	
3. 芦屋町祖父母学級における公開講座	
4. 土曜学び合いルーム	
II. 水巻町との包括的連携事業	18
1. 防災教室事業	
III. 北九州市との連携事業	20
1. 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座	
2. 北九州市の学校給食への取り組みー「なでしこハヤシライス」の開発ー	
3. 北九州市の備蓄食品を使用した災害食レシピの開発	
IV. 折尾二三会との包括的連携事業	26
1. おりちょこランド	
V. 味の素株式会社との包括的連携事業	28
1. グルタミン酸濃度測定簡易キットを用いた食品中のグルタミン酸濃度の研究	
VI. 株式会社えん・コミュニケーションズとの包括的連携事業	30
1. 鮯および明太子を活用した製品開発事業	
VII. ギラヴァンツ北九州との連携事業	32
1. 選手への栄養指導	
2. SDGsサッカークリニック（中学生の部）	
3. 試合時の託児所	
VIII. 宗像市との連携事業	38
1. 甘鯛を利用したレシピ開発	
IX. インターンシップ推進事業	40
1. インターンシップの種類	
2. インターンシップ参加スケジュール	
3. 各インターンシップの実績	
X. 学生ボランティア事業	44
1. ボランティア事業の種類	
2. 各ボランティア事業の実績例	
(1)図書館ボランティア	
XI. その他の地域連携諸事業	46
1. 若松潮風キャベツのレシピ開発	
2. ネットトヨタ北九州料理教室	
3. 九州ラグビー協会との連携事業	
4. 北九州市民カレッジにおける公開講座	

第3章 学外実習・介護等体験等

I. 令和6年度学外実習・介護等体験の実績	54
-----------------------	----

参考資料

I. 地域教育実践研究センターの各種委員会構成員	55
II. 地域教育実践研究センターの運営委員会等年間実績	55
III. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告	56
IV. 協定先一覧	57
V. 講師派遣実績一覧	58
VI. 行政の審議会等委員会委嘱実績一覧	60

第1章 大学における地域連携について

I. 大学が地域連携する意味

本学は、「地域に根差した実践教育を展開する大学」として、これまで取り組んできた教育・研究を地域社会の発展に資するため、平成27年6月1日に地域教育実践研究センターを設置した。

地域教育実践研究センターでは、学部・学科、および教員個々が実施してきた地域との関わりについての実態調査や地域が抱える課題や要望等を把握のうえ、「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」および「地域社会との共生」の3本柱を軸として、地域連携事業の在り方を検討し、本学の地域貢献(型)による大学創りに取り組む。

学生の質保証の強化

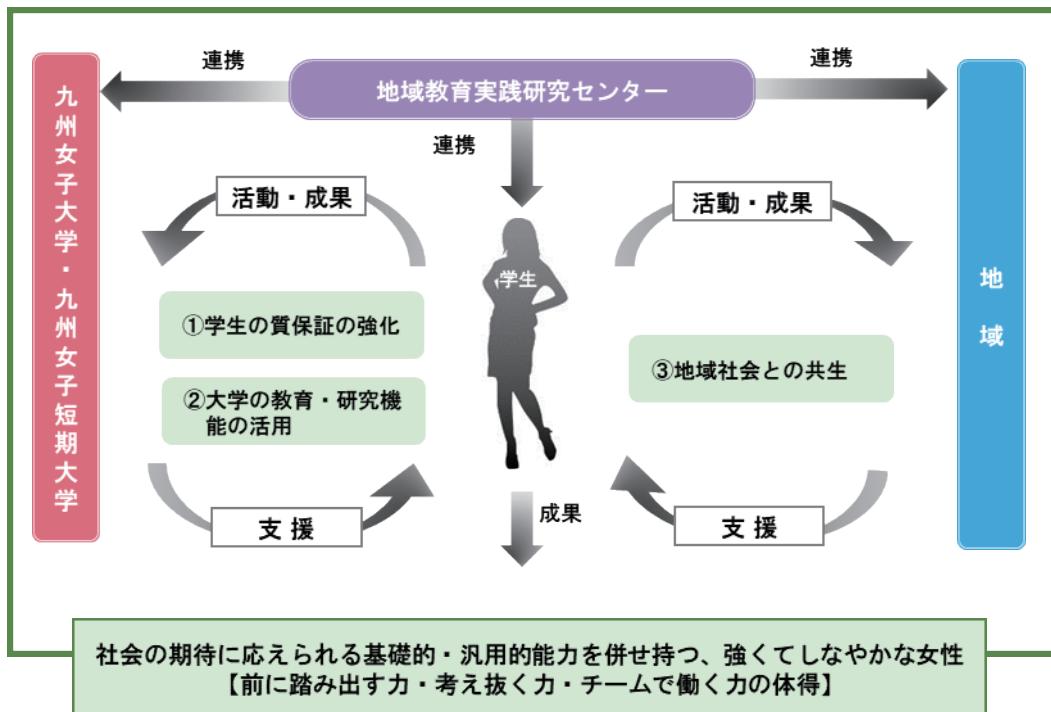
地域課題(ニーズ)と大学資源(シーズ)を把握し、地域の課題を解決するため、学生ボランティアの育成を実践するとともに、学生の実学的教育を実践する。また、学生自身の研究テーマを設定して臨地研究を行うことにより、学生の研究論文に繋げていく。

大学の教育・研究機能の活用

地域課題の現状調査を行い、データを分析し、これに対応する教育プログラムを作成する。また、教員による地域への出前型講座等を学生ボランティアと実践し、事業評価を行う。将来的には、「地(知)の拠点」として地域(自治体・企業等)と地域課題を解決する補助事業や共同研究の実施も視野に入れる。

地域社会との共生

本学と自治体が組織的・実質的に協力し、地域課題と大学資源のマッチングにより、地域と大学が必要と考える取り組みを実践することで、地域との共生を実現させる。



II. 組織と業務内容

1. 組織

地域教育実践研究センターの適正な管理運営を図るため、「地域教育実践研究センター運営委員会」(以下、「運営委員会」)を設置している。運営委員会は、センター所長、センター副所長、教務部長、学生部長、事務局長、大学・短大の各学部等から学長が推薦する教育職員、その他学長が必要と認めた職員で組織している。組織的に事業に取り組むため、事業案件を運営委員会で審議・決定し、本学の評議会に審議事項を上申している。また、事務を所管するのは、センター所長、センター副所長、事務職員が行う。

2. 業務内容

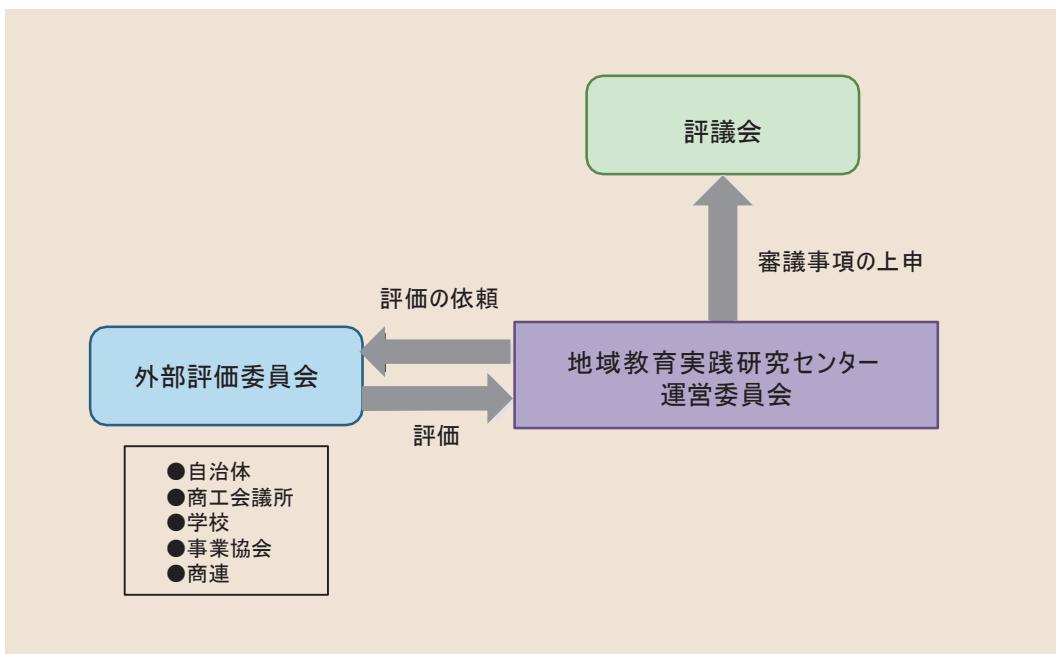
地域教育実践研究センターは、以下の業務を実践・研究するため、学科、個人単位で実施していた地域連携事業の一元化を図るとともに、外部からの依頼に関する窓口としての機能も有する。また、地域連携事業については、運営委員会の検討を踏まえ、各学部等から選出された運営委員により、学科会議等において検討内容の共有に努めることとしている。

地域教育実践研究センターの業務内容

- ①地域教育実践研究活動に関する学内情報の一元管理に関すること
- ②地域教育実践研究活動の学内外への広報ならびに情報の提供に関すること
- ③地域教育実践研究活動に関する対外的な窓口機能に関すること
- ④地域教育実践研究活動の教育実践プログラムおよび研究プロジェクトに関すること
- ⑤地域教育実践研究活動に関する連絡調整に関すること
- ⑥学校インターンシップおよび学校ボランティアに関すること
- ⑦学外実習および介護等体験に関すること
- ⑧その他地域教育実践研究活動に関すること

3. 外部評価

地域教育実践研究センターの取り組みについて、学外有識者による評価を行うことで自己点検・評価活動に反映させ、客観性・公平性を担保するため、外部評価機関として「地域教育実践研究センター外部評価委員会」(以下、「外部評価委員会」)を設置している(P55参照)。



第1章 大学における地域連携について

III. SDGsの推進について

1. SDGsとは

SDGsとは、2015年の国連サミットで採択された、貧困や不平等、気候変動等の様々な社会課題や環境問題を根本的に解決し、より良い生活を送ることができる世界を目指す、世界共通の持続可能な開発目標である。SDGsは、17のゴールと169のターゲットから構成され、2016年から2030年の間、世界中の国々が目標達成に向け取り組んでいる。

本学が位置する北九州市は、内閣府から、「SDGs未来都市」(全国29自治体)、および「自治体SDGsモデル事業」(全国10事業)等に選定されていることから、SDGsを踏まえた取り組みを積極的に推進している。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



2. 本学の取り組み

本学は、地域に根差した実践教育を展開する大学として、大学の持つ教育・研究を地域へ還元し、一人でも多くの人々の生活に反映することでSDGsへ繋げる。自治体および企業等との連携事業を通じて、教育、地域課題の解決、栄養・健康に関するSDGsに取り組み、魅力あるまちづくりへ貢献する。



IV. 令和6年度の地域連携事業実績一覧

	事業	概要	SDGs
I	芦屋町との包括的連携事業	1. スーパーキャラバン隊による模擬保育 芦屋町の保育所・幼稚園において、子ども健康学科の学生が実践型教育、および保育支援として模擬保育を実施した。 ●派遣学生数:10名	 
		2. 地域交流サロンにおける公開講座 芦屋町の地域交流の促進を図り、高齢者に学び直しの機会を提供するため、地域交流サロンにおいて本学教員による公開講座を実施した。 ■担当教員:巴美樹 山本亜衣 井上由紀	
		3. 芦屋町祖父母学級における公開講座 芦屋町の高齢者が充実したセカンドライフを歩むきっかけづくり等のため、昨年度に引き続き、各小学校区の祖父母学級生を対象に本学教員(書道担当)による公開講座を実施した。 ■担当教員:古木誠彦 ①芦屋東公民館 ②山鹿公民館 ③芦屋町中央公民館	
		4. 土曜学び合いルーム 児童・生徒の自学・自習力の向上を図り、学校教育を補充することを目的として、芦屋町教育委員会主催で行われる事業である。芦屋町内の公民館にて年間15回実施しており、令和6年度はのべ707名の児童が参加した。 ■担当教員:蒲原路明	
II	水巻町との包括的連携事業	令和2年度以降町民のさらなる防災意識の向上を図るため、人間生活学科のカリキュラムにおいて防災パネル作成の作成や水巻町役場が地区や小中学校に対して行っている防災教室に同行し、消火器使用上の注意点の説明と実践などを行っている。 (令和6年度は未実施)	   
III	北九州市との連携事業	1. 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座 本学と北九州市(子ども家庭局)で放課後児童クラブの振興を図るため、昨年度に引き続き、本学教員によるクラブ指導員を対象とした公開講座を実施した。 ■担当教員:子安崇夫	
		1. 北九州市の学校給食への取り組み 北九州市の学校給食改善事業「おいしい給食大作戦」において、本学栄養学科が給食応援団となり、給食メニュー開発を行った。	
		1. 北九州市の備蓄食品を使用した災害食レシピの開発 日常生活に災害食を取り入れる「ローリングストック法」を広げるため、本学栄養学科にて北九州市の備蓄食品を使用し、災害食レシピ開発を行った。	
IV	折尾二三会との包括的連携事業	1. おりちょこランド 折尾二三会が主催している職業体験型イベント「おりちょこランド」にて本学生活デザイン学科の学生をボランティアとして派遣し、イベントを実施した。 ●派遣学生数:5名	

第1章 大学における地域連携について

事業		概要	
V	味の素株式会社との包括的連携事業	<p>1. グルタミン酸濃度測定簡易キットを用いた食品中のグルタミン酸濃度の研究 うま味を活かした美味しい給食の提供を目指すことを目的とし、味の素株式会社が開発したグルタミン酸測定用キットを用いて、地域の福祉施設および病院給食のグルタミン酸の測定を行った。</p>	
VI	株式会社えん・コミュニケーションズとの包括的連携事業	<p>1. 鮭および明太子を活用した製品開発事業 栄養学科の学生が、株式会社えん・コミュニケーションズが主力商品としている鮭や明太子を活用し、簡単で美味しい手軽に食べられる商品の作成を目的に試作品を開発した。</p>	
VII	ギラヴァンツ北九州との連携事業	<p>1. 選手への栄養指導 ギラヴァンツ北九州選手の食に対する意識改革を行い、勝率を上げることを目的に栄養学科が栄養講習会、食事調査および解析を実施した。</p> <p>2. SDGsサッカークリニック（中学生の部） 北九州市および本学園、ギラヴァンツ北九州主催の「SDGsサッカークリニック2024（中学生の部）」を開催し、栄養学科学生が考案したメニューの紹介と栄養学科教員による講義を実施した。</p> <p>3. 試合時の託児所 子ども健康学科専攻科の学生が「ギラヴァンツ北九州」のホームゲーム4試合で、サポーターが子ども連れでもゆっくり観戦できるための空間を提供するため、託児所を開設した。</p>	
VIII	宗像市との連携事業	<p>1. 甘鯛を利用したレシピ開発 宗像市の宗像漁協と提携し、食品ロス削減とカルシウム強化を目的として、廃棄される甘鯛の骨を用いた新製品の開発を行った。</p>	
IX	インターンシップ推進事業	<p>1. 北九州商工会議所インターンシップ 北九州市内の学生に対して、職業意識の醸成や勉強意欲の向上、および市内企業への就職促進を図るため、市内の大学、短期大学、企業、北九州商工会議所が連携・協力し、就労体験の場を提供する事業である。 ●派遣学生数：【夏季】4人／【春季】0人</p> <p>2. 九州インターンシップ推進協議会インターンシップ 九州全体を見据えたインターンシップの推進と次代を担う若手の人材を育成するため、九州経済産業局や地元経済界、主要大学による産学官が協力して実施する事業である。 ●派遣学生数：【夏季】0人／【春季】0人</p> <p>3. 山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ 山口県の経済・社会の活性化に貢献するため、県内の高等教育機関等、事業所、経済団体、行政機関が相互に連携・協力し、企業等へのインターンシップを通じて、高い職業意識の育成を推進する事業である。 ●派遣学生数：【夏季】0人／【春季】0人</p> <p>4. 北九州市インターンシップ 職業意識の向上、人材育成、および市政に対する理解を深めるため、市と協定を締結した教育機関の学生を対象とした市役所の公務に関する職業体験事業である。 ●派遣学生数：8人</p>	

事業		概要
X	学生ボランティア事業	<p>本学は、幼児教育者や学校教員等を目指す学生に現場経験を積ませるため、グリーンティーチャー等と称して、幼稚園・保育所、小学校、特別支援学校等に数多くの学生を派遣している。また、ボランティアとして、病院施設、図書館等にも学生を派遣している。</p>
XI	その他の地域連携諸事業	<p>1. 若松潮風キャベツのレシピ開発 地域産学官連携プロジェクトの一環として、北九州市立大学、JA北九州、本学において「廃棄されるキャベツの再利用について」の取り組みを行った。その中で若松キャベツの流通拡大や地域活性化・地産地消・キャベツ生産者増大・特産品の認知度向上の寄与につなげることを目的として、若松潮風キャベツを利用したレシピ開発を行った。</p> <p>2. ネットトヨタ北九州料理教室 ネットトヨタ北九州の社員に対して、健康の維持増進を図ることを目的とし、運動セミナーおよび栄養セミナー、料理教室を実施した。</p> <p>3. 九州ラグビー協会との連携事業 北洋建設presents NanairoCUP北九州 7人制女子ラグビーにおいて、子ども連れでも安心して試合観戦が楽しめるように、スタジアム3Fのスカイボックスを一部、託児所として開設した。</p> <p>4. 「北九州市民カレッジ」における公開講座 「北九州市民カレッジ」において、高等教育提携コース(本学会場)で本学教員による4講座全21回を開講した。また大学連携リレー講座においても本学教員を2名派遣した。</p> <p>5. 折尾商連主催「折尾まつり」への参画 「折尾まつり」は例年6月に開催される折尾地区最大のイベントで、1987年に第1回が始まった地域の方々にとってなじみの深い伝統あるお祭りである。今回の「折尾まつり」はJR折尾駅北側の駅前広場にて、6月1日(土)、2日(日)の二日間にわたって行われ、会場には多くの方々が詰めかけ大盛況となった。 この祭りを主催する「折尾まつり実行委員会」は、地域住民をはじめ官公庁や企業の方々で組織されているが、以前から本学の職員や学友会に所属する学生も参画し、企画段階から当日の運営に至るまで深く関わっている。今回も学生2名が半年ほど前から定例の企画会議に出席し、まつり本番もステージイベントの司会や出場者の誘導などを担当した。</p>

第2章 令和6年度の地域連携事業

I. 芦屋町との包括的連携事業

年 度	令和6(2024) 年度
事業名	芦屋町との包括的連携事業 スーパーキャラバン隊による模擬保育
九州女子大学	担当者 貞方 聖恵
	所 属 子ども健康学科
連携機関	機関名 芦屋町
	責任者
事業実施日・回数	2024年1月8日 1回
実施場所	社会福祉法人 長崎たちはな会 緑ヶ丘保育園
事業対象者 参加人数	72名
経 費	
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 スーパーキャラバン隊は、九州女子短期大学子ども健康学科の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等において、模擬保育・模擬授業を開催する学生主体の活動である。その活動を通して、学生の「創造性」「意欲」「研究心」「人間関係力」「問題解決能力」等、総合的な「人間力」の育成を目的としている。</p> <p>2. 実績 令和6年度は、子ども健康学科2年生のスーパーキャラバン隊10名が参加し、芦屋町緑ヶ丘保育園にて約1時間の模擬保育を実施した。 保育園の0歳児から5歳児まで幅広い年齢の子どもたちの前で、手遊びやパネルシアター、オペレッタ、クイズ、歌等、授業や実習で学んだ内容を取り入れた活動を行った。保育終了後には、クラスごとに写真撮影をしたり、学生たちがトンネルを作り、保育室へ戻る子ども達を見送ったりした。</p> <p>3. 効果 これまでの授業や実習で学んだことを活かし、学生主体で保育の立案を行った。その際、一つ一つの活動が途切れないように次の活動へつなぐ言葉かけを考えたり、自分の強みを生かした担当配置にするなど、学生同士で意見を出し合い、学生自身の学びにもつながった。 参加した子ども達は、曲や踊りに合わせて、一緒に踊ったり手を叩いたりしながら、笑顔で参加していた。保育終了後には、学生に抱っこを求める子どももあり、子ども達・学生ともに充実した時間となった。</p>
学生・参加者の声	<p>【学生より】 2年間学んできたことを踏まえてスーパーキャラバン隊の仲間たちと活動することができ、良い経験になりました。この経験は、保育者として就職後にも役立つと思います。</p> <p>【参加保育者より】 学生さんたちの楽しい保育をありがとうございました。ぜひ、大ホールで公演していただきたいです。</p>
今後の改善内容 及び展開	本年度は訪問型の模擬保育を実施できたことで、子ども達をはじめ、学生達にとっても、充実した時間となったと感じた。今後も訪問型の模擬保育を継続するとともに、多くの園が参加しやすい設定日を考えていきたい。

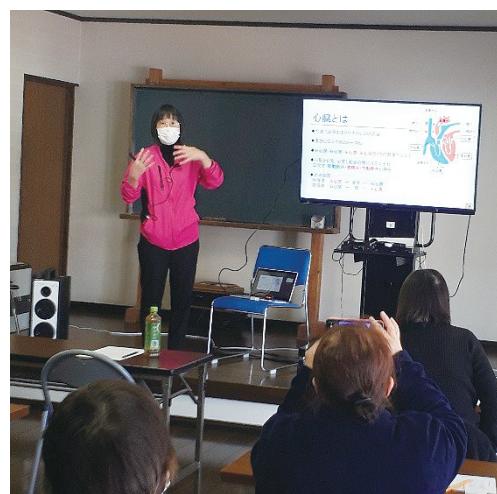
模擬保育 当日の様子



第2章 令和6年度の地域連携事業

年 度	令和6（2024）年度
事業名	芦屋町 地域交流サロンにおける公開講座
九州女子大学	担当者 巴 美樹 山本 亜衣 井上 由紀
	所 属 家政学部 栄養学科
連携機関	機関名 芦屋町
	責任者
事業実施日・回数	2月3日（月）・2月5日（水）・2月17日（月） 計3回
実施場所	
事業対象者 参加人数	芦屋町町民 34名
経 費	
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 高齢者の健康で楽しい日々を送れるための食事をテーマに 「若く美しく健康に老いる食生活」「心疾患について」の講義を実施した。</p> <p>2. 実績 ①2月 3日 芦屋町地域交流サロン公開講座（第2 緑ヶ丘） ②2月 5日 芦屋町地域交流サロン公開講座（大城） ③2月 17日 芦屋町地域交流サロン公開講座（三軒屋）</p> <p>3. 効果 平均年齢 75 歳以上の高齢者の集まりである。参加されている方は熱心で質問も多く、何回も参加されている方が年々増えてきている。このサロンは、高齢者が家の中に引きこもることがないよう、小さなブロックでお互いの健康等を見守る大事な取り組みであり、芦屋町と「サロン」の連携が上手く行った健康寿命の延伸に向けた取り組みである。</p>
学生・参加者の声	参加者からは大好評で、来年度も是非継続してほしいとお願いされた。
今後の改善内容 及び展開	骨密度等の測定を行っており、継続的な測定結果の解析を行っていきたい。 また学生にも参加させて、地域の交流を経験させたい。

芦屋町地域交流サロン 当日の様子



第2章 令和6年度の地域連携事業

年 度	令和6(2024) 年度
事業名	九州女子大学との包括的地域連携協定に基づく講座 「芦屋町祖父母学級における公開講座」
九州女子大学	担当者 古木 誠彦
	所 属 九州女子大学 心理・文化学科
連携機関	機関名 芦屋町中央公民館長
	責任者 井上弘行 館長
事業実施日・回数	3月5日(水)・3月6日(木)・3月8日(土) 各 13:30~15:30
実施場所	山鹿公民館・芦屋東公民館・芦屋中央公民館
事業対象者 参加人数	芦屋東公民館学習室(12人)・山鹿公民館学習室(10人) 中央公民館会議室(6人) 計 28名
経 費	
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 3カ所の公民館における公開講座 芦屋町の高齢者が充実したセカンドライフを歩むきっかけづくり等のため、各小学校区の祖父母学級生を対象に本学教員(書道担当)による公開講座を実施し、その目的の一助とする。</p> <p>2. 実績 芦屋町祖父母学級は、芦屋小学校・芦屋東小学校・山鹿小学校の各校区で活動する大人向けの公民館講座の一つであり、豊富な知識と経験を持つ者同士が、楽しく学び、より深い社会性を身につけることを目的としている。その祖父母学級の高齢者を対象に学び直しの機会を提供するため、3ヶ所の公民館において本学教員による公開講座を、6年間継続して実施している。</p> <p>3効果 今回は、初の試みで古代文字を使った作品制作を行った。講座タイトルは、「漢字講座～中国古代文字を覚えて筆で「吉語」を書こう！！」 9種類の吉語による古代文字作品を制作。全ての受講生が(書道経験者も)、このような制作は初体験のため、最初から経験の有無による格差が無く、楽しく、かつ知識レベルの向上も合わせて講義できた。今回は、書いた作品を展示するところまで行ったため、講義後の作品を、来館者に鑑賞してもらうことまでできた。更なる地域活性に貢献できたと考える。</p>
学生・参加者の声	<p>○実際に書くとデザインを書いていたみたいでおもしろかった。</p> <p>○学びと実技のバランス(配分)がとても良くて興味深く楽しい時間が過ごせました。</p> <p>○古代文字に興味がわきました。</p> <p>○漢字の説明も面白かったです。実技がもっと楽しく時間が“あっ”という間にすぎてしまいました。</p> <p>○漢字の成り立ちの話が大変おもしろかったです。古代の人間の感性や生活を支えていた行事、また象形がとても意味深く感じました。</p>
今後の改善内容 及び展開	ここ数年間、講座内で新たな試みを継続している。マンネリ化した内容ではないので、受講生の皆さんのが意欲が高く、内容も高レベルになっているが、それを感じさせないような工夫を継続して行いたい。とにかく、本講座は楽しく、しかも高度なレベルを行っていきたい。本来の「書」の魅力を、趣味レベルではなく、本格的に感じられる講義にすることで、真の文化レベルの向上に繋がると考える。本講座の継続者が増えてくれることを切に望んでいる。

公開講座 当日の様子



第2章 令和6年度の地域連携事業

年 度	令和 6 (2024) 年度
事業名	芦屋町「土曜学び合いルーム」
九州女子大学	担当者 蒲原 路明
	所 属 人間科学部 児童・幼児教育学科
連携機関	機関名 芦屋町教育委員会（生涯学習課所管）
	責任者 芦屋町中央公民館 館長 井上 宏行
事業実施日・回数	年間 15 回 (5/25、6/15、6/29、7/20、8/3、8/17、9/7、9/28、10/5、10/19、11/2、11/30、12/21、1/25、2/8)
実施場所	芦屋町中央公民館、芦屋東公民館、山鹿公民館
事業対象者 参加人数	芦屋小学校児童、芦屋東小学校児童、山鹿小学校児童
経 費	
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等</p> <p>芦屋町「土曜学び合いルーム」は、児童・生徒の自学・自習力の向上を図り、学校教育を補充することを目的として、芦屋町教育委員会主催（生涯学習課所管）で行われる事業である。町内 3 小学校区単位で、3 か所の公民館を会場に、年間 15 回実施している。本事業は、令和 6 年度で 23 年目を迎える。九州女子大学人間科学部児童・幼児教育学科では、学生ボランティア（グリーン・ティーチャー）として平成 23 年度より事業に参加し、平成 28 年度からは、包括的連携事業として実施している。新型コロナウイルス感染症のため、令和 2 年度から 3 年間は中止していたが、令和 5 年度より再開している。</p> <p>2. 実績 ※ 資料 1</p> <p>毎回、九州共立大学のスマイルステーションに、8 時 25 分までに集合し、送迎のマイクロバスで各公民館に向かう。そして、9 時から 11 時まで、参加児童の自主学習の支援を行う。帰りもスマイルステーションまでマイクロバスで送っていただく。</p> <p>本年度の派遣学生と参加児童は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学生ボランティア（グリーン・ティーチャー）派遣 <p>15 回の開催で、山鹿公民館 59 名、中央公民館 59 名、芦屋東公民館 60 名、のべ 178 名の学生を派遣し、学習支援を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 参加児童 <p>参加した児童数は、各公民館合計、のべ 707 名であった。</p> <p>3. 効果</p> <p>第 1 回の開講式から 15 回実施し、多くの児童の学習支援を行うことができた。参加した学生は、児童が持参した教材で自主学習をする際の支援として、学習の仕方や問題の解き方などを指導することができた。児童は、昨年度より多く参加し、自主学習をすることができた。</p> <p>学生は、小学校の児童と接する機会がほとんどない。本事業で小学生と触れ合い、実際に学習支援を行うことで、児童の実態をとらえるとともに、教職への意欲を高めることができた。また、児童の反応に合わせた対応の仕方を学ぶことができたことで、参加してよかったですと実感することができた。そして、今後に活かしたいという思いが強くなかった。</p>

学生・参加者の声	※ 資料2
今後の改善内容及び展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 11/2、2/8 は、悪天候のため中止になった。参加学生への連絡は、その日の担当者 1 人 1 人にショートメールで行った。一斉に連絡できる方法を検討する必要がある。 ○ 夏休み期間の 8 月や大学の試験前、また、教育実習期間など、学生の希望者が少なく、人数確保が難しかった。募集の方法や連絡の方法を工夫する必要がある。 ○ 教職に就こうと考えている学生にとって、児童と関わる機会が増え、実態を把握できることは意義深いことであると考える。今後も、芦屋町との連携を深め継続していくことが望ましいと考える。

＜資料1＞

開催回数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	回
	5月	6月		7月	8月		9月		10月		11月		12月	1月	2月	
R6年度 学生ボランティア派遣実績	25日	15日	29日	20日	3日	17日	7日	28日	5日	19日	2日	30日	21日	25日	8日	
山鹿公民館	6	7	6	5	6	5	5	3	2	5	0	2	3	4	0	59
中央公民館	6	4	4	5	5	6	3	4	4	3	0	3	6	6	0	59
芦屋東公民館	6	6	5	5	6	6	5	5	3	5	0	2	2	4	0	60
全体集計	18	17	15	15	17	17	13	12	9	13	0	7	11	14	0	178
											中止			中止		
R6年度 参加児童数	参加児童数		悪天候のため													・希望学生 61名 ・のべ 178名
山鹿公民館	707名															
中央公民館																
芦屋東公民館																

＜資料2＞

令和 6 年度 土曜学び合いルームに関するボランティア等 アンケート結果

- 1 学び合いルームについての感想を聞かせてください。
 - 多くの子どもと関わることができたり、勉強を教えたりすることができ、良かった。
 - 普段は、児童の実態を知ることができる機会がないので、このような場を設けていただけて、大変助かります。
 - 子どもに勉強を教えるという環境が、今はとても貴重で、自分にとっても勉強することができた。
 - 様々な学年の児童の学習支援を手伝うことができ、とてもありがたく感じている。小学生の内容といえど、「どう教えたら伝わるか」「どう説明したらいいのか」など、考えるのは大変であったが、充実した時間を過ごすことができた。また、ふだん小学生と関わる機会がないため、土曜学びあいルームに参加させていただき、ありがたく思っている。
 - 昨年度から参加させてもらっているが、素直な子どもたちが多いと思う。
 - とてもありがたい体験をさせていただいた。教師を目指している身として、足りない部分にも気づかされた。
 - 小学生の子どもがとても素直で、とても教えやすかったです。教える経験ができて良かったです。
 - 普段子どもたちと関わる機会が少ないので、新鮮で楽しかったです。

第2章 令和6年度の地域連携事業

- 子ども達や地域の方との関わりが普段ないので、関わることができて良かったです。
 - 小学生に勉強を教えるのはとても面白いです。
 - 学校外での子ども達の学習する姿を見ることができて、とても貴重な体験ができました。本当にありがとうございました。
 - 毎回元気な子ども達の姿を見てパワーをもらいました。また、私自身が小学生の頃に学び合いに来ていたので、こうやって教えることができたのがとても嬉しかったです。
- 2 学び合いルームに参加して役立ったことを聞かせてください。
- 4月から教師になるにあたって、不安が少し減った。
 - 学習指導の多様な場面を経験できた。
 - 私は、3年からこの学び合いルームに参加させてもらっていたので、教育実習などの机間巡視などの指導にはとても役立ちはじめました。
 - 小学校の先生になるまで、どのように教えたら理解しやすいのか、考えることができた。
 - 参加してよかったです、小学生と関わることができたこと、各学年で児童の苦手なところなどをこの学び合いルームに参加し、知ることができたので、来年度の教育実習に活かしていくたい。
 - 子どもたちとの関わりの中で、気付いたことが多くあった。
 - 子どもたちの実態が分かって、教え方の改善に生かすことができました。
 - 子どもたちの学習状況を知ることができたので良かった。
 - 全体で行う授業だけでなく、1対1での教え方を学ぶ事ができた。
 - 教採に役立ちました。
 - 学校以外の場所での子どもたちの姿を見ることができて、有益な時間で刺激を受けました。
 - 地域の方や先生方から指導の仕方や勉強の教え方をたくさん学ぶ事ができました。
- 3 学び合いルームの運営面等を含めて何か困ったこと、気づいた点、改善すべき点があれば聞かせてください。
- 周りの先生方もとても優しく、居心地が良かった。
 - 暖房調節が難しかったり、水筒を持ってきていない児童がのどが渴いたりして、対応をすぐできるようにしたいと思います。
 - 子どもが「えんぴつ削りがない」と言っていたので、1台でもあれば良いと思いました。でも、あると席を離れる回数が増えてしまうかもしれない、難しいかなと思いました。

土曜学び合いルーム　当日の様子



第2章 令和6年度の地域連携事業

II. 水巻町との包括的連携事業

年 度	令和5(2023) 年度
事業名	水巻町防災講座
九州女子大学	担当者 富山禎信・秋丸風花
	所 属 生活デザイン学科(人間生活学科)・キャリア支援課(地域教育実践センター)
連携機関	機関名 水巻町役場
	責任者 水巻町役場総務課
事業実施日・回数	2024年2月10日(土)
実施場所	UR 梅ノ木団地
事業対象者 参加人数	梅ノ木団地住民 約20名 人間生活学科3年生2名
経 費	なし
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等</p> <p>防災講座事業は、水巻町民の防災リスクの回避と防災意識の向上を目的として実施している。本事業は、防災に係る事業を水巻町と本学との包括連携協定にもとづいて実施するものである。</p> <p>今回は、防災体制の整備と防災意識のさらなる向上を図るため、水巻町の中でも人口密度の高いUR梅ノ木団地東区の住民を対象にして、学生が防災講座に同行して消火器の使用上の「注意点の説明」と「実践」を行った。</p> <p>火災時の対応で最も重要なのが、発生から2分以内の初期消火とされる。消防隊が現場に到着するまで、平均でおよそ7分程度かかるといわれる。消防隊が現場に到着するまで放置すると全焼の恐れもある。</p> <p>したがって初期消火活動の中で、もっとも確実な消火方法である消火器の使用が重要となる。しかし、いざというときに消火器を使えなければ意味をなさない。そこで梅ノ木団地住民に消火器の種類と使い方を知ってもらうため、防災講座の中で初期消火の方法を住民に提示することになった。</p> <p>2. 実績</p> <p>防災講座の中で学生が消火器の使用上の「注意点説明」と「使用の実践」(的に向かって疑似消火剤を噴霧する訓練)を行った。</p> <p>3. 効果</p> <p>大勢の学生の前で発表する経験は幾ばくかある。しかし、市井の人々の前で話をしたり、レクチャーする経験は学生にはなかった。当該学生たちは、消火器の使用方法と実践を事前に学習していたとはいえ、未経験で不慣れな状況下にあり、下記の学生の声にもあるように緊張していた。しかし、学生自身は「説明と噴霧がうまくできた」と自己評価を下しており、不慣れな状況の中でも成功体験を積むことができたと考えられる。また、水巻町の防災体制の整備と住民の防災意識の向上に、多少なりとも資することができた。</p>
学生・参加者の声	事業実施後に学生の内省を企図してカンファレンスを実施した際に、次のような発言があった。「大勢の前で消火器の使用方法を説明をする機会をいただけて、大変有意義だった」、「消火器の使い方を説明するのに緊張した」、「消火器の説明と噴霧は、うまくできたと思う」とのことであった。
今後の改善内容 及び展開	今回、防災講座のアシスタントとして学生が活動した。上記のような効果はあったものの、主体的に防災の企画したり、考えた企画を学生主体で運営するまでには至っていない。次なる展開としては、学生主体の企画・運営を水巻町と協働で実施することにあると考えられる。

水巻町防災講座 当日の様子



以上は令和5年度の取り組みである。令和6年度については実施していないが、令和7年度以降に向けて防災に関する取り組みを検討する。

第2章 令和6年度の地域連携事業

III. 北九州市との連携事業

年 度	令和6(2024) 年度
事業名	北九州市との連携事業 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座
九州女子大学	担当者 子安崇夫 所属 子ども健康学科
連携機関	機関名 北九州市子ども家庭局こども若者成育課 責任者 居場所づくり担当課長 北崎 賢
事業実施日・回数	令和6年6月24日(月)
実施場所	浅生スポーツセンター 体育館(アリーナ)
事業対象者 参加人数	放課後児童クラブ指導員 約90名
経 費	
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 北九州市との連携事業において、子どもの健全な育成を目的に実施。放課後児童クラブ指導員約90名を対象に、児童期の子どもたちに向けたより良いあそびの提供、指導員に対してのあそびの進め方について「幼年期のあそびから児童期のあそびを考える」をテーマに、実技を中心とした公開講座を行った。</p> <p>内容は、手あそびを題材に、幼児期につけたい3つの運動能力を説明し、その後、児童期でも楽しめるあやとりの連続技、しっぽを使った様々なしっぽとりおにごっここの種類を実施した。最後は実技で行ったあそびについての考え方や進め方についてまとめを行った。</p> <p>2. 効果 放課後児童クラブの指導員は保育士・元教員・幼稚園教諭など、子どもに関わる職歴を持つ人や子育て経験のある保護者、教育学・心理学・福祉学を学ぶ学生、地域ボランティアや高齢者など、地域ぐるみで構成されていることもあり、様々な方が関わっている。今回の公開講座を実施することで子どもに対する考え方や、あそびの進め方に関してある程度共通の考え方を共有できる効果が期待される。</p>
学生・参加者の声	参加者の感想 「手遊びからはじまり、体を動かすあそびまで、子どもとやってみたら楽しいうだらうな~と思うような研修でした。あそびの中にもたくさんのことを考えたり、動かしたり、いろんな動作などがあり、楽しかったです。」「子ども達自身に決めさせる“選択”が最近減ってきたように感じていたので、職員で話し合って子ども達の発想と選択の機会を増やせるように気を付けていきたいと思います。」
今後の改善内容 及び展開	開催時間の2時間の中で、できるだけのことは実施できた。しかし、2時間ではとてもお伝えしきれない、実技で紹介したいあそびをすべてはできない。その中で、どのように子どもと関わるか、どのようにあそびを進めていくかの考え方をできる限り分かりやすく伝えることができるよう改善していく必要がある。
	また、可能であるなら、複数回を同じ参加者が連続して受講できる形式で実施するとより良い公開講座になると感じる。

放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座 当日の様子



第2章 令和6年度の地域連携事業

年 度	令和6(2024) 年度
事業名	北九州市の学校給食への取り組みー「なでしこハヤシライス」の開発ー
九州女子大学	担当者 巴 美樹、山本 亜衣 所 属 九州女子大学家政学部栄養学科
連携機関	機関名 北九州市教育委員会 責任者
事業実施日・回数	2024年4月～継続中
実施場所	九州女子大学
事業対象者 参加人数	北九州市全小学校、中学校
経 費	
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 北九州市では近年給食の残食率が問題になっていることから、小中学校の学校給食改善事業「おいしい給食大作戦」を立ち上げ、栄養学科はその学校給食応援団として九州女子大学監修メニューの開発を行っている。令和6年度はカゴメ(株)「響灘菜園」の規格外のトマトを使用し、SDGsと食育に繋がる「なでしこハヤシライス」を開発した。</p> <p>2. 実績 ①2024年5月15日 北九州市定例会「おいしい給食大作戦第2弾」において、市長より「なでしこハヤシライス」の紹介がなされた。 ②2024年5月 北九州市の全小・中学校へ「なでしこハヤシライス」が導入された。 ③2024年5月21日 栄養学科学生10名が深町小学校に行き、児童と一緒に試食しながら開発までのエピソード、工夫点などをプレゼンした。当日の様子はTNC「記者のチカラ」、KBC「シリタ力」、「アサデス」で放映された。</p> <p>3. 効果 SDGsをコンセプトとした安くておいしくてヘルシーな「なでしこハヤシライス」は、響灘菜園の規格外のトマトを使用し、牛乳・乳製品を使用せずにコクを出すための調味料、スパイスの工夫により価格70円以内、牛乳・乳製品へのアレルギー対応を実現させることができた。成長期に必要な栄養素も豊富で、子どもたちからも大好評であり、当日の給食は残食0であった。</p>
学生・参加者の声	子ども達からは、「トマトが苦手でも食べやすい！」今までで一番おいしかった！との歓声があった。学生は栄養学科で学んだことを生かし、価格やアレルギー対応の問題点を実践的に勉強する機会となっていると話していた。また、北九州市での初めての試みとして実際に給食へ取り入れていただき、子ども達の笑顔がみられてとてもやりがいを感じている様子であった。
今後の改善内容 及び展開	今後も引き続きSDGsをコンセプトとした安くておいしくてヘルシーな学校給食のメニュー開発を行っていく。特に、北九州市に導入されたスマートコンベクションオーブンを使用した新メニューの開発に注力することとなった。

北九州市の学校給食への取り組み 当日の様子



第2章 令和6年度の地域連携事業

年 度	令和6(2024) 年度
事業名	北九州市の備蓄食品を使用した災害食レシピの開発
九州女子大学	担当者 井上 由紀 山本亜衣 巴 美樹
連携機関	所 属 家政学部 栄養学科
機関名	北九州市
責任者	
事業実施日・回数	1回
実施場所	八幡西区防災訓練
事業対象者 参加人数	北九州市 地域住民 274名 スタッフ 96名
経 費	
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等</p> <p>九州女子大学栄養学科は北九州市の備蓄食品を使用し、日常生活に災害食を取り入れる「ローリングストック法」を広げるためのレシピ開発を行っている。災害が長期化するにつれ、避難所での寒さ、ストレス、塩分過多による高血圧、たんぱく質・ビタミン・食物纖維の不足により免疫機能の低下、低栄養状態が問題となる。また食物アレルギーのある人では、安心して食べられる食品が少なく、低栄養や低体重のリスクが高くなる。今回、アレルギー対応を含めたレシピ開発を行い、防災訓練で試食提供及びレシピ配布を行った。</p> <p>2. 実績</p> <p>2024年11月30日(土) 八幡西区防災訓練 塔野小学校</p> <p>3. 効果</p> <p>防災講話の1つとして試食とレシピ紹介を同時にでき、災害時の食事や栄養について印象付けることができた。また九州女子大学のような若い方も一緒に訓練をするのは良かったとの意見があり、イメージアップにもつながった。</p>
学生・参加者の声	会場からは「美味しい！」と声をかけて頂き、学生は達成感を得た様子であった。 訓練実施後のアンケート結果で、今後の防災活動の参考となった訓練を複数回答可で尋ねたところ、防災講話の回答が最も多く、被災した時に自分でできるアレンジレシピが勉強になったとの回答があった。
今後の改善内容 及び展開	備蓄食材は高齢者や乳幼児にとって手を加えなければ食べにくい食材であり、今後もレシピ開発が必要と感じる。また家庭でのローリングストックも無駄なく無理なく日々の食事に取り入れるためのレシピ開発が必要と考えられ、今後も検討していきたいと考える。

防災訓練 当日の様子



災害レシピの試食

【作り方】
「尾西の白がゆ」を使ったレシピ
ごま団子

①尾西の白がゆにスキムミルクと砂糖を入れ、やわらかご飯の熱まで熱湯を入れ15分待つ。
②ボウルに(1)を出してゴムべらでつぶすように練り、片栗粉を入れてかたさを調整する。
③②を8つに分けてこしあんを入れて包み、白ごまをまぶす。
④適量の油で揚げる。

栄養素	1袋8個分	1個分
エネルギー	802Kcal	100Kcal
たんぱく質	24.7g	3.0g
脂質	44.1g	5.5g
炭水化物	83.3g	10.4g
カロリーアクション	793mg	99mg
食塩相当量	1.6g	0.2g

【材料】 1袋で8個
 - 尾西の白がゆ 1袋
 - スキムミルク 大さじ2
 - こしあん 80g
 - 砂糖 小さじ2
 - 片栗粉 大さじ1
 - 白ごま 大さじ1
 - なたね油 溶量

第2章 令和6年度の地域連携事業

IV. 折尾二三会との包括的連携事業

年 度	令和6(2024) 年度
事業名	おりちょこランド
九州女子大学	担当者 富山 祐信
	所 属 家政学部生活デザイン学科
連携機関	機関名 折尾二三会
	責任者
事業実施日・回数	1回
実施場所	北九州イノベーションセンター（北九州市八幡西区）
事業対象者 参加人数	5名
経 費	折尾二三会
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 イベント事業「おりちょこランド」は、折尾地区の若手経営者による異業種交流団体である折尾二三会が主催している。その内容は、地域の小学生以下の児童および保護者を対象とした地域イベントである。本イベントでは児童たちの職業体験を通して、職業社会に対する理解を深め、将来地元での就職を促すことや親しみをもってもらうことを目的としており、具体的には世の中の職業の疑似体験を通じて社会の仕組みや仕事を学べる取組みとなっている。</p> <p>2. 実績 本イベントに生活デザイン学科の学生がボランティアで参加し、運営の補助を行った。学生は生活デザイン学科の授業科目を通じて学んだ形式知・身体知の内容を土台にして、上記の事業内容を「地域に根差した実践教育」として捉え、その学びを地域に返す「知の還元」を実践できている。また、本イベントへのボランティア参加を通じて、地域の人々に貢献ができた。</p> <p>3. 効果 「授業での学び→実践/貢献活動→成果検証→体験を通じた学び/達成感を味わう」といった事を学生は体感できている。すなわち、生活デザイン学科で幅広く学んだ内容をもとに、地域への「知の還元」と学生の「さらなる学びの好循環」をつくりだしていることを担当者として実感している。</p>
学生・参加者の声	参加学生からは、「私は特に販売ブースでのサポートを担当しました。子どもたちと接する中で、彼らの純粋な好奇心や興味に触れることができました。別のブースですが実際にJRの制服を着て切符を発行する仕事体験をする姿や、真剣な表情な様子は、とても印象的でした。子どもたちの笑顔を見ていると、私自身もやりがいを感じました」、「販売ブースでは（販売管理論で学んだ）商品のディスプレイのやりかたを思い出して子供たちとやってみました」との感想があった。
今後の改善内容 及び展開	今回は、学生の運営ボランティアとしての参加のみであったが、仕事体験として大学が高等教育機関のブースをつくり、大学の各職種・各部署の仕事体験を企画するのも可能なのではないかと考えられる。また、大学の広い構内を活用して「おりちょこランド」を実施することも可能なのではないかと考えられる。地域の人々に福原学園の一部校内を開放することで地域貢献はもとより、学生募集にも一定の効果があるといえよう。新たな提案として、この2点を提案したい。

おりちょこランド 当日の様子



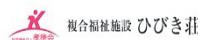
「第4回おりちょこランド」ポスター
出典：<https://ssl.city.kitakyushu.lg.jp/files/001111720.pdf>

第2章 令和6年度の地域連携事業

V. 味の素株式会社との包括的連携事業

年 度	令和6(2024) 年度
事業名	味の素株式会社との包括的連携事業 グルタミン酸濃度測定簡易キットを用いた食品中のグルタミン酸濃度の研究
九州女子大学	担当者 山本 亜衣 巴 美樹 所 属 九州女子大学家政学部栄養学科
連携機関	機関名 味の素(株) 責任者
事業実施日・回数	2023年3月～継続中
実施場所	九州女子大学
事業対象者 参加人数	測定数: 約500品目
経 費	
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 うま味を活かした美味しい給食の提供を目指し、味の素株式会社の開発した簡便・迅速なグルタミン酸測定用キット(デジタルパックテスト)を用いて、地域の福祉施設および病院給食(一般職・腎臓食)のグルタミン酸量の測定を行った。本事業は、①給食現場でのデジタルパックテストの実用性を確認するために、測定することができる料理の範囲を明らかにし、簡便に測定するための希釈スケール作成を検討すること、②「生活の場」である高齢者施設と「治療」を目的としている病院の給食においてグルタミン酸濃度に違いがみられるか検討すること、③たんぱく質制限や塩分制限のある腎臓食のグルタミン酸濃度が常食と違いがあるか確認することを目的とした。</p> <p>2. 実績 ①2023年5月～2023年8月 福祉施設の給食のグルタミン酸濃度、塩分濃度の測定 ②2023年11月24日 経過報告書の提出 ③2023年12月～2024年7月 病院給食のグルタミン酸濃度、塩分濃度の測定 ④2025年3月 報告書の提出</p> <p>3. 効果 デジタルパックテストの実用性の確認と希釈スケール作成については希釈倍率ごとにグルタミン酸濃度や食材、調味料の使い方に特徴がみられ、希釈の目安を得ることができた。福祉施設、病院給食のグルタミン酸濃度、塩分濃度の実態調査については施設に違いがみられ、福祉施設は「生活の場であることから、病院よりも使用する食材や調味料に制限があまりないためとグルタミン酸量が多かった。また、腎臓食は常食よりグルタミン酸量、塩分量が少なく、「おいしい」と感じない料理が提供されており、このキットを活用することでグルタミン酸量だけでも改善させ、「おいしい」と感じる腎臓食の提供につながると考えられた。</p>
学生・参加者の声	実際に提供されている福祉施設のグルタミン酸濃度、塩分濃度を測ることができ、管理栄養士を目指す学生にとって貴重な経験となっている。
今後の改善内容 及び展開	本事業の課題として、①デジタルパックテストで測定することのできなかった果物類、生の野菜類などの原因や対策を明らかにすること、②現場で簡単に測定するための希釈スケールについて、今回目安を得ることはできたが、さらに測定例を増やして明確なスケール化を行うことが挙げられ、今年も引き続き追加試験の依頼を受け、共同研究を行うこととなった。

【ひびき荘で提供されている食事の一例】



エネルギー 1400 kcal
たんぱく質 60g
脂質 40g
炭水化物 200g



【産業医科大学病院で提供されている食事の一例】



エネルギー 1800 kcal
たんぱく質 70g
脂質 40g
炭水化物 290g



【小倉記念病院で提供されている食事の一例】



エネルギー 1700～1800 kcal
たんぱく質 60g～70g
脂質 40g～50g
炭水化物 240g～280g



研究の様子



第2章 令和6年度の地域連携事業

VI. 株式会社えん・コミュニケーションズとの包括的連携事業

年 度	令和6(2024) 年度
事業名	鯖および明太子を活用した製品開発事業
九州女子大学	担当者 巴 美樹 新富瑞生 井上由紀
	所 属 家政学部 栄養学科
連携機関	機関名 (株)えん・コミュニケーションズ
	責任者 品質管理本部 開発部 部長 藤田 尚孝
事業実施日・回数	2024年4月～11月
実施場所	九州女子大学 弘明館 B106
事業対象者 参加人数	事業対象者：えん・コミュニケーションズ 学生：6名
経 費	なし（原料の提供のみ）
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 鯖および明太子を使用した製品の開発。しめ鯖用の冷凍鯖と、一般的に製品として売られている、「真子」と呼ばれる一番良いランクの明太子を使用し、簡単で美味しく手軽に食べられる商品の制作を目的に開発を行った。</p> <p>2. 実績 (株)えん・コミュニケーションズの限られた調理機器を考慮して7品の製品開発を行ない、試食会を開催した。商品開発では、美味しさだけではなく、使用する鯖や明太子本来の味、色を生かす工夫を行い、コスト面や製造面を考慮した製品の開発を行なった。</p> <p>3. 効果 試食会は好評であり、製品化に近づける事が出来た。</p>
学生・参加者の声	商品化するためには、味だけではなく、コスト(食材の原価や人件費等)や工場での大量生産が可能であるのか、製品の保存期間はどれくらいであるのか、購買意欲が沸くネーミングにすることなど、商品開発の難しさについて学ぶ貴重な機会となった。
今後の改善内容 及び展開	試食会における企業からのアドバイスや意見（風味や食感、見た目などが楽しめるような商品にすること、食品の傷み具合や保存期限を検査すること、販売方法を考えること）を参考に改善を行い、製品化に繋がる商品の開発を行なっていきたい。

鰯および明太子を活用した製品開発事業



【試食会の様子】



ヤンニョムサバ



カルボサーバキッシュ



鰯キッシュ



明太キッシュ



めんたいスノーボールクッキー



明太クリームブリュレ



明太子スcone

第2章 令和6年度の地域連携事業

VII. ギラヴァンツ北九州との連携事業

年 度	令和6(2024) 年度
事業名	ギラヴァンツ北九州との連携事業 選手への栄養指導
九州女子大学	担当者 巴 美樹 山本亜衣
	所 属 九州女子大学家政学部栄養学科
連携機関	機関名 ギラヴァンツ北九州
	責任者
事業実施日・回数	3回
実施場所	ギラヴァンツ北九州クラブハウス(新門司マリーナ)
事業対象者 参加人数	選手への栄養講習会: 選手 30名
経 費	
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等</p> <p>栄養学科は2021年以来、継続的にトップチームへの栄養講習会を行っており、今年も選手の食に対する意識改革を行い、ギラヴァンツ北九州の勝率を上げることを目的に栄養講習会、食事調査および解析を3回行った。食事また、調査後は学生が体組成や食事内容から担当選手の問題点を抽出し、写真やグラフを用いて選手にフィードバックした。</p> <p>2. 実績</p> <p>①第1回目栄養講習会: 2024年3月14日 巴教授による栄養セミナー、学生による個人指導、食事調査、解析、フィードバックの作成</p> <p>②第2回目栄養講習会: 2024年8月2日 練習の見学、スポーツダイレクター 池西 希氏による講義、巴教授による栄養セミナー、学生による個人指導、食事調査、解析、フィードバックの作成</p> <p>③第3回目栄養講習会: 2024年9月14日 学生による個人指導、食事調査、解析、フィードバックの作成、トレーナー 村越 達也氏によるコメント</p> <p>3. 効果</p> <p>選手への栄養指導について、より学生が活躍できるように今年から選手一人に対して学生が一人つき、栄養指導を行った。対象の9名は栄養指導前、朝食の摂取割合が少なく、昼食、夕食の摂取割合が多かったため、朝食の摂取量を増やし昼食・夕食の摂取量を減らす指導を行った結果、朝食においてすべての栄養素で増加が見られ、継続的に栄養指導を行うことで選手の食意識の向上が窺えた。</p>
学生・参加者の声	個別指導を通して、学生はプロの選手に対して指導する責任の重さ、やりがいを感じていた。選手たちも食事の改善点や今後の食事のアドバイスを真剣に聞き、疑問に思ったことを質問するなどしており、回数を重ねるにつれてより選手に寄り添った栄養指導ができている様子であった。
今後の改善内容 及び展開	今後も継続してJ2昇格を目指し、本学の広報にもつなげていきたい。

栄養講習会 当日の様子



第2章 令和6年度の地域連携事業

年 度	令和6(2024) 年度
事業名	ギラヴァンツ北九州との連携事業 —SDGs サッカークリニック (中学生の部)—
九州女子大学	担当者 巴 美樹、井上 由紀、新富 瑞生
	所 属 九州女子大学家政学部栄養学科
連携機関	機関名 ギラヴァンツ北九州
	責任者 北九州市、学校法人福原学園、ギラヴァンツ北九州主催
事業実施日・回数	2024年12月15日・1回
実施場所	サッカークリニック: 九州女子大学
事業対象者 参加人数	選手への栄養講習会: 選手 30名 サッカークリニック: 保護者 17名、子ども 22名
経 費	
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 北九州市、学校法人福原学園、ギラヴァンツ北九州主催で例年行っている「SDGs サッカークリニック 2024(中学生の部)」を実施し、未来のサッカー選手の育成に貢献した。</p> <p>2. 実績 「栄養セミナー」では、栄養学科の学生によるメニュー紹介と巴教授による中学生アスリートの栄養の摂り方についての講義を行った。学生はスポーツをする上で必要となるたんぱく質やカリウム、ビタミン C、EPA カルシウムなどが手軽に摂取できるメニューを考案した。考案したメニューは「九女特製なでしこビーフシチュー」「鰯のさつま揚げ」「大根サラダ」「ひじきとほうれん草の白和え」「おしるこ」の5品であり、参加した子どもたちや保護者の方に調理、提供して作り方やポイントを説明した。食事の後は、高吉正真選手、長谷川光基選手への質問タイムがあり、子どもたちは多くの質問をして交流を深めることができた。</p> <p>3. 効果 サッカークリニックにおいても全体の満足度は満足と答えた保護者が 100%、子どもは 95.2% と非常に高い評価で、料理に関する保護者・子ども達共に高い評価が得られた。</p>
学生・参加者の声	参加者からは「先生のお話がすごく分かりやすくてとても勉強になりました。」「朝ご飯の大切さが分かりました。」「今日は大変ためになる話をありがとうございました。」などの感想をいただき、大変好評であった。昨年度に続き2度目の参加者もあり、次回の開催を希望される声も多かった。
今後の改善内容 及び展開	開催頻度について、保護者の 55%、中学生の 40% が年に 2 回以上を希望しており、サッカークリニックの継続が期待されていた。

SDGs サッカークリニック 当日の様子



第2章 令和6年度の地域連携事業

年 度		令和6(2024) 年度
事業名		ギラヴァンツ北九州との連携事業 試合時の託児所
九州女子大学 連携機関	担当者	橋口 文香 ・ 貞方 聖恵
	所 属	子ども健康学科
連携機関	機関名	ギラヴァンツ北九州
	責任者	
事業実施日・回数		2024年6月29日(土)・9月7日(土)・10月26日(土)・11月16日(土) 4回
実施場所		ミクニワールドスタジアム北九州 3F スカイボックス
事業対象者 参加人数		1歳半～未就学児(試合を観戦する親子) 家族26組、未就学児35名、保護者45名
経 費		
事業目的・内容等 及び実績と効果		<p>1. 事業プランの目的・内容等 子どもと安心して試合を観戦できるスペースとして、スタジアム 3F のスカイボックスを一部、託児所として開設した。2024 シーズンは、永井龍選手の『小さなお子様をもつ親御さんが安心して試合を楽しめる環境を作りたい』という思いのもと 4 試合で託児所を開設し、招待企画を実施した。 実施内容としては、運動遊び・制作体験・試合観戦・会場散策・学生による手作り玩具を使用した遊びを行った。</p> <p>2. 実績 ①2024年6月29日(土)ギラヴァンツ北九州 VS 福島ユナイテッド FC 戦 家族8組、未就学児10名、保護者14名 ②2024年9月7日(土)ギラヴァンツ北九州 VS FC 今治 戦 家族7組、未就学児9名、保護者10名 ③2024年10月26日(土)ギラヴァンツ北九州 VS ツエーゲン金沢 戦 家族5組、未就学児7名、保護者10名 ④2024年11月16日(土)ギラヴァンツ北九州 VS AC 長野パルセイロ 戦 家族6組、未就学児9名、保護者11名</p> <p>3. 効果 託児所を開設することによって、保護者は安心して試合観戦ができるとともに、子ども達は学生たちと楽しい時間を過ごすことができた。また、学生にとっても、これまで学んできた知識や技能を活かすことができる場となり、双方にとって効果的な内容であった。</p>
学生・参加者の声		<p>【学生】 ・託児所の企画・円滑な運営、子ども達との関わりや安全面の配慮、保護者との関わり方など体験的に学びを得ることができた。</p> <p>【参加者】 ・たくさん遊ぶものがあり、人見知りをする我が子でも楽しそうだった。 一人一人担当の学生さんがついてくれるのはとても安心できました。 ・雰囲気がとても良く、学生さんも子どもの扱いに慣れていてとても安心して預けられます。</p>
今後の改善内容 及び展開		・利用の子ども達の年齢に幅があるため、それぞれの発達段階にあった遊びを工夫していきたい。

当日の様子



第2章 令和6年度の地域連携事業

VIII. 宗像市との連携事業

年 度	令和6(2024) 年度
事業名	宗像市との地域連携事業の取り組み～甘鯛を利用したレシピ開発～
九州女子大学	担当者 巴 美樹 新富瑞生 井上由紀
	所 属 家政学部 栄養学科
連携機関	機関名 宗像市役所、宗像市漁業組合
	責任者 宗像市コミュニティ協働推進課 政策係 主任主事 西山 久瑠美
事業実施日・回数	商品開発：2024年5月～9月 鐘崎さかなまつり：2024年11月10日
実施場所	商品開発：九州女子大学 弘明館 B106、鐘崎さかなまつり：鐘崎漁港
事業対象者 参加人数	事業対象者：宗像市役所、宗像市漁業組合 学生：7名
経 費	なし（原料の提供のみ）
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等</p> <p>福岡県宗像市の宗像漁協と提携し、廃棄される甘鯛の骨を用いてSDGsに繋がる食品ロス削減とカルシウム強化のための商品開発を行うこととなった。そこで、食品ロス削減・廃棄時のコストダウンのために、捨てられるはずであった甘鯛の骨を用いた新商品の開発を行い、甘鯛の骨を丸ごと使用したレシピを開発することで、カルシウム強化を図り、今後の学校給食や幼稚園・保育園の補食への活用につなげることを目的とした。</p> <p>2. 実績</p> <p>甘鯛の骨を使用し、「鯛の出汁」と「鯛の骨パウダー」を製作した。それらを元に12品のレシピ開発を行った。さらに、開発した製品のうち、特に好評であった菓子3品を鐘崎さかなまつりで販売した。当日は宗像市の伊豆市長に激励に来て頂き、販売したお菓子は約3時間で完売した。</p> <p>3. 効果</p> <p>鐘崎さかなまつりにおいて甘鯛の骨パウダーを使用した菓子の販売を行ったことで、宗像市の魅力をPRすることができ、九州女子大学のPR活動にも繋がった。</p>
学生・参加者の声	レシピ開発を通し、味・風味・食感の他、栄養価・販売方法など様々な要素を考慮し、どうすれば手に取っていただける商品になるかを考えることの大変さを学んだ。
今後の改善内容 及び展開	試食検討会でいただいた意見を元に改良を重ね、宗像市の特産を活用した商品開発を行ない、今後の地域活性化と宗像漁協の経済効果向上に繋げたい。

宗像市との地域連携事業の取り組み～甘鯛を利用したレシピ開発～



【試食会の様子】



鯛の骨の出汁を使ったラーメン(温・冷汁風)



鯛の和風ポテトサラダ



チャーハン風炊き込みご飯



美味しかっ鯛(たい) (甘辛味・ピリ辛味) とキンパ



カナッペ



鯛の骨のふりかけ(白味噌)



鯛の骨のふりかけ(赤味噌)



大豆お魚フロランタン



バナナキャラメルドーナツ



レーズンバターサンド



【鐘崎さかなまつりでの販売の様子】

第2章 令和6年度の地域連携事業

IX. インターンシップ推進事業

本学のインターンシップについては、文部科学省・厚生労働省・経済産業省が提言している「インターンシップ推進に当たっての基本的考え方」に則り、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」として、地元企業を中心としたインターンシップ推進事業に積極的に取り組むことで、学生のインターンシップへの参加を促進している。

また、上述の「インターンシップ推進に当たっての基本的考え方」に関して、今般のインターンシップを取り巻く状況の変化等を踏まえ取りまとめられた留意点を考慮し、より教育効果の高いインターンシップの推進・普及を実施するため、令和3年度より大学2年生から正規の教育課程にインターンシップ科目を配置し、学生を派遣している。

1. インターンシップの種類

北九州商工会議所インターンシップ
北州市内の学生に対して、職業意識の醸成や勉学意欲の向上、および市内企業への就職促進を図るため、市内の大学、短期大学、企業、北九州商工会議所が連携・協力し、就労体験の場を提供する事業である。
(一社)九州インターンシップ推進協議会インターンシップ
九州全体を見据えたインターンシップの推進と次代を担う若手の人材を育成するため、九州経済産業局や地元経済界、主要大学による産学官が協力して実施する事業である。
山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ
山口県の経済・社会の活性化に貢献するため、県内の高等教育機関等、事業所、経済団体、行政機関が相互に連携・協力し、企業等へのインターンシップを通じて、高い職業意識の育成を推進する事業である。
北九州市インターンシップ
職業意識の向上、人材育成、および市政に対する理解を深めるため、市と協定を締結した教育機関の学生を対象とした市役所の公務に関する職業体験事業である。

地域教育実践研究センター

地域教育実践研究センターでは、各インターンシップの夏季および春季の参加者を募集し、参加希望者の応募手続きを行っている。

北九州商工会議所インターンシップ

(一社)九州インターンシップ推進協議会
インターンシップ

山口県インターンシップ推進協議会
インターンシップ

北九州市インターンシップ

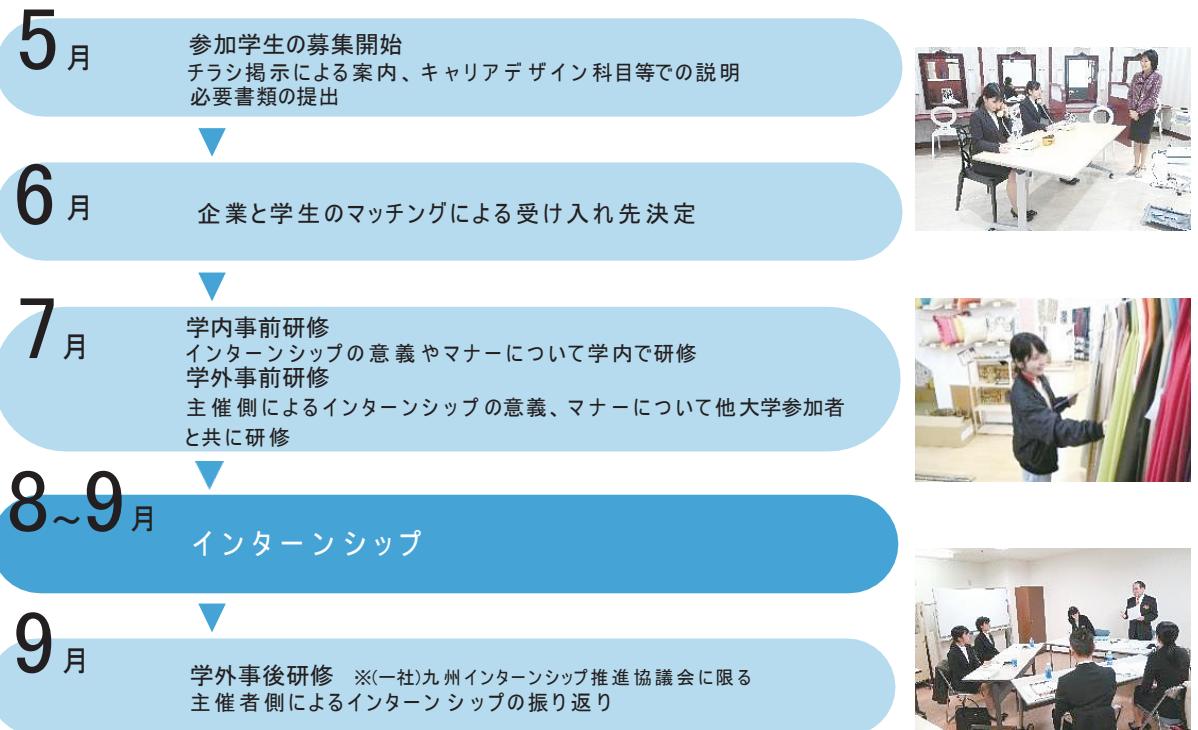
インターンシップを通じて学べること

- 業務内容や企業について深く知ることができる。
- 今後の業界・職種・企業選びやキャリアプラン設計の材料となる。
- 社会人としての意識、働くことへの意識が身につく。
- 実務の業務スキルが得られる。

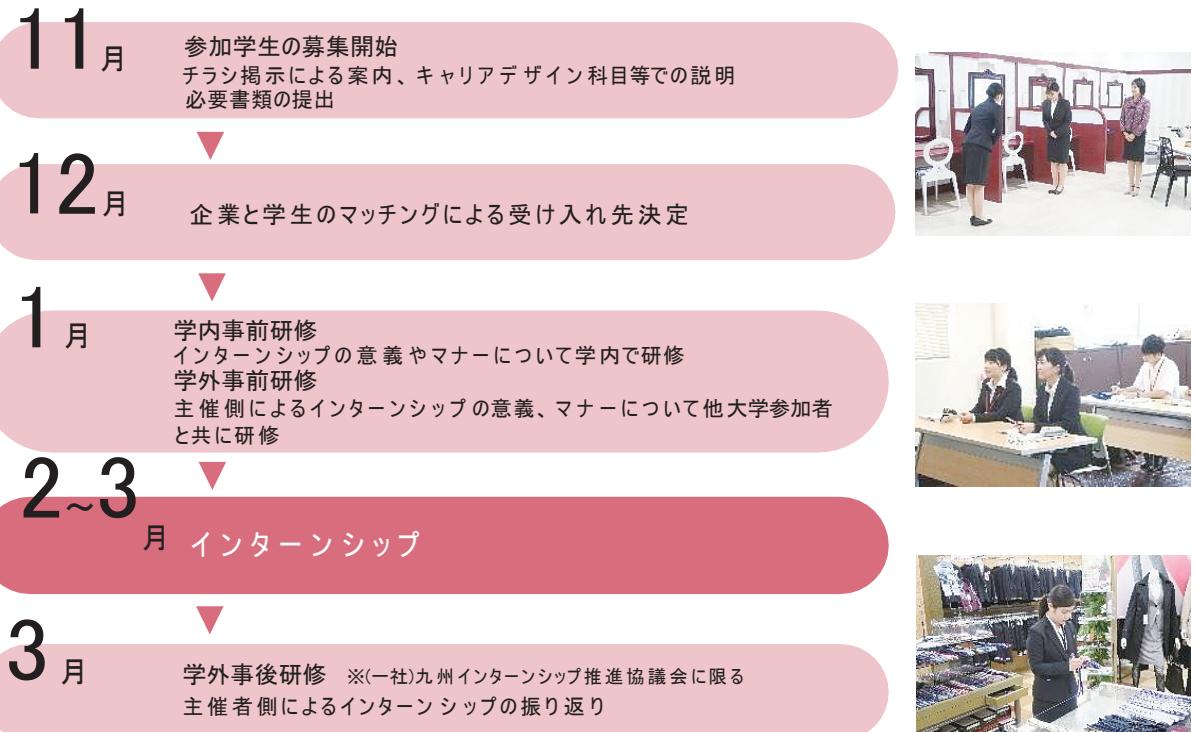
2. インターンシップ参加スケジュール

インターンシップに参加する学生に対して、本学独自の事前研修を行い、社会で必要なスキルを事前に身につけたうえで企業へ派遣するフォローオン体制を整えている。また、インターンシップ終了後は、インターンシップ時の評価をフィードバックし、その後の就職活動に繋げている。インターンシップ参加のスケジュールは、以下のとおりである。

(1) 夏季インターンシップ



(2) 春季インターンシップ



第2章 令和6年度の地域連携事業

3. 各インターンシップの実績

(1) 北九州商工会議所インターンシップ

① 本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	人数
夏季	株新大倉	8/26~8/30 ※8/29は台風接近により中止	4日	1
	吉川工業(株)	9/9	1日	
	(株)ルネ	8/26	1日	1
	(株)西日本シティ銀行北九州総本部	8/23	1日	1
	北九州エアターミナル(株)	8/16、8/18~8/21	5日	
	(株)ジェイコム九州 北九州局	8/22、8/24~8/26	4日	1
	ネッツトヨタ北九州(株)	9/13	1日	
計				4
春季	参加者なし			
	計			0
合計				4

学生のコメント (一部抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・若手社員の方からベテラン社員の方まで幅広くお話してきて参考になった。 ・業界の内情や関係者しか知らないことを深く知る事ができた。 ・会社に対する理解を深めることができた。またインターンシップの中で自己分析を行ったことで、自らに対する理解もでき、とても実りのある時間にする事ができた。 ・実際に働かれている場面の見学をしたいと思った。 ・営業業務に同行でき、貴重な経験になった。また他大学の参加者とも交流することができ良かった。
受け入れ先の コメント (一部抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力が優れていました。挨拶がとても素晴らしかったです。報告会では発想がとてもユニークで実現できるかは別としてですが、アイディアがとても素晴らしかったです。 ・初日は緊張していた様子で大人しい印象を受けました。非常に真摯に対応されている姿が印象的でした。最終日は場の状況にも慣れてきたようで、周りの学生さまとのコミュニケーションもスムーズになってきました。積極的に質問をする姿も見られ何事にも前向きに取り組む姿勢は評価のポイントかと存じます。 ・実習では積極的に質問があり、弊社についてもここ数年で1番調べていただいており事前の準備が出来ておりました。 ・業界説明時にはメモをきちんと取っていたり、工場見学時には案内した社員へ積極的に質問をしたり、このインターンシップで何か学ぼうという姿勢が見えて、開催する側もやりがいがあった。

(2) (一社)九州インターンシップ推進協議会インターンシップ

①本学の実施状況

※令和6年度の本学学生の参加者なし

(3) 山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ

①本学の実施状況

※令和6年度の本学学生の参加者なし

(4) 北九州市インターンシップ

①本学の実施状況

◆ KITA Q SHIP

	受け入れ先	日程	日数	人数
	北九州市産業経済局 雇用政策課	8月中旬～9月中旬	8日	1
	北九州市産業経済局 雇用政策課	8月中旬～9月中旬	8日	1
合計				2

◆ 北九州市役所インターンシップ(2期)

	受け入れ先	日程	日数	人数
	戸畠区役所	12/9～12/13	5日	1
	若松区役所	12/11～12/13	3日	1
	教育委員会	1/20～1/24	5日	1
	都市整備局	12/16～12/20	5日	1
	公営競技局	12/2～12/6	5日	1
	八幡西区役所	12/10～12/13	4日	1
合計				6

第2章 令和6年度の地域連携事業

X. 学生ボランティア事業

本学は、幼稚教育者や学校教員等を目指す学生に現場経験を積ませるため、「グリーンティーチャー」等として、幼稚園・保育所、小学校、特別支援学校等に数多くの学生を派遣している。また、ボランティアとして、病院施設、図書館等にも学生を派遣している。

1. ボランティア事業の種類

九州女子大学	グリーンティーチャー	取得免許毎の学生の実践力向上を図る事業について、「グリーンティーチャー」と命名している。グリーンとは、「緑の、未熟な、未経験の、元気のいい、若々しい、新鮮な」という意味を含んでいる。教育現場等において、園児や児童の指導補助・学習支援等を通して、学生の実践力を身につける本学独自の取り組み。
	病院・施設ボランティア	病院(病児保育)・施設(療育施設)において、多様な保育環境に対応できる保育者を育成する取り組み。
	図書館ボランティア	図書館において、図書館司書資格に必要な知識と技術を実務経験を通して身につけ、現場で図書館司書の役割等を理解する取り組み。
九州女子短期大学	幼稚園・保育所・施設ボランティア	幼稚園・保育所・施設の行事等の多様な活動において、役割や仕事を実践・思考することで、職業人として必要な力を育成する取り組み。
	キャラバン隊	九州女子短期大学の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等に出向き、模擬保育や模擬授業を展開する取り組み。

2. 各 ボランティア事業の実績例

(1) 図書館ボランティア (図書館司書課程)

図書館司書課程は、学生の実践教育の場として企業や地域と連携して様々な活動を行っている。今年度は、これまでの実績から教育委員会との連携企画も実施することができた。今後も図書館司書課程では、地域の方へ図書館活用を推進するために様々な活動を実施していきたい。

(主な活動内容)

- 公共図書館においてのボランティア活動(表 1)
- 学校図書館においてのボランティア活動(表 2)
- 折尾まちづくり記念館との共催企画「ビブリオバトル」を年4回開催
- 折尾まちづくり記念館を使った「びぶりこっとすぐーる」を2回開催
- 八幡図書館文芸ラウンジ「澤田瞳子さん講演会」
- 八幡西区制 50 周年記念事業「北九州イノベーション祭」
- 「本の内容づくりワークショップ」



(表1)公共図書館ボランティア

No.	公共図書館名	人数
2	鞍手町中央公民館図書室	5
3	福岡東図書館	4
4	北九州市八幡図書館折尾分館	9
5	北九州市八幡西図書館	38
6	北九州市八幡図書館	18
9	北九州市立小倉南図書館	2
	計	76



(表2)学校図書館ボランティア

No.	学校図書館	人数
1	北九州市立浅川小学校	8
2	自由ヶ丘高等学校	83
	計	91

(学生のコメント)

- 今回のボランティア活動を通じて、授業を受けるだけでは理解できなかった司書の実際の業務の一部を経験することができた。本の管理には、単に返却された本を並べるだけではなく、実際に本が全て揃っているか、修繕は必要かなどの細かいチェック作業や修繕、分類整理といった作業が本を管理するために不可欠であることを学んだ。また、自分自身の適性についても考えるきっかけになった
- 今後は継続的に関わる機会を自分から作り、より多くの業務を経験して課題を克服していきたい。また、積極性を高めることも今後の課題として意識していきたいと考えている。社会に出る前に、自分から行動を起こせるようになり、周囲とのコミュニケーションにも慣れていく。そのため、他のボランティア活動にも積極的に参加し、多様な経験を積んでいく。

第2章 令和6年度の地域連携事業

XI. その他の地域連携諸事業

年 度	令和6(2024) 年度
事業名	地域産学連携プロジェクトのSDGsの一環としての 若松潮風キャベツのレシピ開発
九州女子大学	担当者 井上 由紀 巴 美樹
	所 属 家政学部 栄養学科
連携機関	機関名 北九州産業学術推進機構 (FAIS)
	責任者 片田 裕介
事業実施日・回数	2024年4月～2025年3月
実施場所	レシピ開発：九州女子大学 第1回試食会：北九州市学術研究都市1号館 「HIBIKINO ODORIBA」 第2回試食会：九州女子大学
事業対象者 参加人数	北九州産業学術推進機構 (FAIS) 学生：17名
経 費	
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等</p> <p>本研究は、地域産学連携プロジェクトのSDGsの一環として、北九州市立大学、JA北九州と本学において「廃棄されるキャベツの再利用について」の取り組みを行った。その取り組みの中で若松潮風キャベツを利用したレシピ考案、商品開発を行い、流通拡大や地域活性化・地産地消・キャベツ生産者増大・特産品の認知度向上の寄与につなげることを目的とした。</p> <p>2. 実績</p> <p>2024年6月21日に若松潮風キャベツを使用した8品のレシピについて、第1回試食会を開催し、北九州市立大学、FAIS、JA北九の方々(29名)を対象にアンケートを行った。その結果、食感や味付け風味に対して改善点が見出された。2025年1月16日に開催された第2回目試食会では改善レシピ4品、新規レシピ3品の試食会を行い、21名にアンケート調査を行った。</p> <p>3. 効果</p> <p>開発レシピの中で、キャベツ漬物、キャベツ肉春巻き、コールスローは高評価であった。キャベツ羊羹は味付けや食感の改善により2回目試食会で高評価を得ることができた。キャベツレシピを考案し、試食会を開催することでキャベツ料理の可能性を提示することができ、九州女子大の知名度の寄与にもつながった。</p>
学生・参加者の声	若松潮風キャベツのレシピ開発に携わることで、生産農家の減少などの現状の問題や海水散布によるミネラル補給について詳しく知ることができ、学びに繋がった。試食会によるアンケートでは改善点を調査し、2回目試食会では、その改善レシピを評価していただくことができ、商品開発の難しさを学ぶことができた。試食会参加者からは、美味しいという声も聞かれ学生のやりがいにもつながった。
今後の改善内容 及び展開	今後は若松潮風キャベツを販売するJA北九州との連携を図り、地元特産品の知名度向上にさらに努めていきたい。

試食会 当日の様子



キャベツ羊羹



漬物



各料理の改善点

料理名	改善点
キャベツ肉春巻き	キャベツの量や見た目
キャベツチーズ春巻き	全面的な見直し
コールスロー	食感と風味
キャベツコロッケ	キャベツの切り方と量
キャベツドレッシング	キャベツと玉ねぎの割合
キャベツご飯	炊飯と提供の方法の見直し
漬物	キャベツときゅうりの割合
キャベツ羊羹	餡と寒天の量を増やす



第2章 令和6年度の地域連携事業

年 度	令和6(2024) 年度
事業名	ネットトヨタ北九州料理教室
九州女子大学 連携機関	担当者 巴 美樹 新富瑞生 井上由紀
	所 属 九州女子大学 家政学部 栄養学科
機関名	ネットトヨタ北九州労働組合
責任者	
事業実施日・回数	2024年8月26日
実施場所	九州女子大学 弘明館 B106、B107
事業対象者 参加人数	ネットトヨタ北九州の社員 学生9名、教員5名、助手5名
経 費	
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 本年度で2回目となる本取り組みは、ネットトヨタ北九州の社員に対して、運動セミナー及び栄養セミナー、料理教室を実施し、社員の健康の維持増進を図ることを目的とした。</p> <p>2. 実績 共立大学の教員より自宅で簡単にできる運動の指導があり、その後、本学教員による筋肉を維持するための講義が行われた。講義後は、料理未経験者でも簡単に作れる事が出来る料理6品の調理実習を行った。</p> <p>3. 効果 本取り組みは本年度で2回目となるが、昨年度参加した社員より社内で口コミにて本取り組みが広がったことで、本年度初めて参加する社員も多かった。健康の維持増進のためには日常的な運動と栄養バランスを考えた食事が大切であるということを知ってもらう良い機会となった。</p>
学生・参加者の声	<p>参加した社員からは、「運動セミナーも自分の体を見直すいいきっかけになり、料理も大変美味しかった」「食と健康について学びと楽しみが盛り込んであり、とても楽しかった」「また機会があれば参加したい」など、大変好評であった。</p> <p>学生は、参加者がスムーズに実習を行えるようにサポートを行ったが、人に教えるためには自分自身が全体の流れを把握し、調理の手順を覚えておくことの重要性を学ぶ良い機会となった。</p>
今後の改善内容 及び展開	本取り組みは、地域の方々へ九州女子大学の取り組みをPRできる良い機会となっている。次年度も継続して開催したい。

ネットトヨタ北九州料理教室



【運動セミナーの様子】



【栄養セミナーの様子】



第2章 令和6年度の地域連携事業

年 度	令和6(2024) 年度
事業名	九州ラグビー協会との連携事業
九州女子大学	担当者 橋口文香 ・ 貞方聖恵
	所 属 子ども健康学科
連携機関	機関名 九州ラグビー協会
	責任者
事業実施日・回数	2025年2月8日・2月9日 2回
実施場所	ミクニワールドスタジアム北九州 3F スカイボックス
事業対象者 参加人数	1歳半～未就学児(試合を観戦する親子) 家族3組、未就学児4名、保護者3名
経 費	
事業目的・内容等 及び実績と効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 北洋建設 presents NanairoCUP 北九州 7人制女子ラグビーにおいて、子ども連れでも安心して試合観戦が楽しめるように、スタジアム 3F のスカイボックスを一部、託児所として開設した。 実施内容としては、運動遊び・制作体験・試合観戦・会場散策・学生による手作り玩具を使用した遊び・ICT 保育を行った。</p> <p>2. 実績 2025年2月8日(土)：託児1名 保護者1名 2025年2月9日(日)：託児3名 保護者2名</p> <p>3. 効果 これまでの託児所開設の実践を活かし、九州ラグビー協会との連携のもと託児所を行った。保育士資格を持つ専攻科の学生達が託児を行うことで、保護者にとって安心して子どもを預けられ、試合観戦ができる場を提供することができた。また学生にとってもこれまでの学びを活かすことができる貴重な経験となった。</p>
学生・参加者の声	<p>【学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の活動を通して、子どもが安全に遊ぶことができるよう配慮する大きさを改めて学びました。 子どもが興味を持ったものに対して、私たち自身が楽しみ、一緒に遊ぶことで子どもも楽しく遊べることを体験的に学ぶことができました。 <p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもはたくさん遊んでもらって楽しそうでしたし、私もゆっくり試合観戦することができました。 子ども達を手厚く見てくださいました。泣き続ける我が子にもやさしく寄り添ってください、優しく遊んでいただけ、親子で安心して楽しい一時を過ごせました。
今後の改善内容 及び展開	これまでの託児所開設実績を活かし、活動の幅が広がってきており、今後も安心・安全な託児所の開設を続けていくとともに、さらに地域連携事業の発展に取り組んでいきたい。

当日の様子



第2章 令和6年度の地域連携事業

4. 北州市民カレッジにおける公開講座

北州市民カレッジは、北九州市(生涯学習総合センター)が主催で、市民に対して多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、人材育成を図ることを目的に運営している講座群である。令和6年度は、各大学等の特徴を活かした高度で専門的な学習分野「高等教育機関提携 コース」において、前期・後期それぞれ2講座全21回を本学や折尾まちづくり記念館にて開講した。また「大学の魅力！地域に発信！！」をテーマとした全6回の大学連携リレー講座では、家政学部より佐久間治教授、人間科学部より鍋田智広教授を派遣した。

コース名	高等教育機関提携コース(前期)	
講座名	文化文芸の力と魅力	
内容	<ul style="list-style-type: none">①『萬葉集』の基礎知識～九州の歌～②青銅器銘文を読んでみよう！！③群読の魅力④遠藤周作『深い河』を読む⑤民衆文化に憧れた職業詩人たち⑥江戸の怪談	
担当教員	①人間科学部心理・文化学科 ②人間科学部心理・文化学科 ③人間科学部心理・文化学科 ④人間科学部心理・文化学科 ⑤人間科学部児童・幼児教育学科 ⑥非常勤講師	安井綱子講師 古木誠彦准教授 江口恵子教授 古浦修子教授 中島久代教授 樋澤葉子先生
実施場所	九州女子大学 弘明館	

コース名	高等教育機関提携コース(前期)	
講座名	生活と文化 ～暮らしを楽しむ～	
内容	<ul style="list-style-type: none">①住まいと健康—快適で健康的な温熱環境とは—②住まいと健康—清潔で安全な空気とは—③中国の食文化④中国(少数民族)の染織と生活⑤現代中国の変容と人々の暮らし	
担当教員	①家政学部生活デザイン学科 ②家政学部生活デザイン学科 ③非常勤講師 ④非常勤講師 ⑤非常勤講師	山田裕巳教授 山田裕巳教授 鳥丸知子先生 鳥丸知子先生 鳥丸知子先生
実施場所	九州女子大学 弘明館	

コース名	高等教育機関提携コース(後期)	
講座名	地域に開かれた大学図書館活用	
内容	<ul style="list-style-type: none">①大学図書館とはどんなところ？②大学図書館を使って目的の資料・情報を探そう！③身近な著作権に目を向けよう！④情報リテラシー(セキュリティ)意識を高めよう！⑤もしあなたが図書館司書ならば…	
担当教員	人間科学部心理・文化学科	矢崎美香准教授
実施場所	九州女子大学・九州女子短期大学 付属図書館	

コース名	高等教育機関提携コース(後期)	
講座名	DX・AI…デジタル社会の未来と可能性を考えよう	
内容	<ul style="list-style-type: none">①「情報化社会とは」②③「DX(デジタルトランスフォーメーション)とは」④⑤「AI(人工知能)とは」	
担当教員	人間科学部心理・文化学科	関洋輔教授
実施場所	北九州市折尾まちづくり記念館	

受講者の声

【前期】

- ・各回さまざまな分野の講師の方々により幅広い知識を得た。
- ・いろいろなお話しを興味深く聞かせていただきました。内容的にまだまだお聞きしたいものもありました。
- ・様々な分野の講師による内容でとてもおもしろかった。特に群読は初めての体験だったが、とても良く仕事にも役立てられる。
- ・自分の興味のあることばかりであっという間の5日間でした。
- ・生活に密着した内容で大変おもしろく感じました。

【後期】

- ・仕事でもDXをすすめる担当となり基本的なことが全くわからなかつたため参加しました。先生の講義がとてもわかりやすく良かったです。対面の講義で受講生の反応や質問に的確に答えていただきさらにわかりやすくなりました。
- ・AI初心者向けの講座で大変わかりやすかったです。
- ・利用者目線の説明で分かりやすかったです。検索方法や図書館の利用の仕方は、習うことがなかつたので知ることができて良かったです。
- ・もっと図書館を深く活用して、利用していきたいと思います。

コース名	大学連携リレー講座
講座名	北九州の都市変遷のストーリーと近現代建築との関係性、そして、次世代のための持続可能な風景のあり方
担当教員	家政学部生活デザイン学科 佐久間治特任教授
実施場所	北九州市立生涯学習総合センター

コース名	大学連携リレー講座
講座名	錯覚の科学
担当教員	人間科学部心理・文化学科 鍋田智広教授
実施場所	北九州市立生涯学習総合センター

第3章 学外実習・介護等体験等

I. 令和6年度 学外実習・介護等体験の実績

教育実習	保育実習	臨地実習	介護等体験	臨床実習
<p>教員免許状の取得に際して、各学校における観察・参加・実習という教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに、課題を自覚する機会とすべく実習を行うもの。</p>	<p>保育士資格取得に際して、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもの関わりを通して、子どもへの理解を深めるために保育所、児童福祉施設等において実習を行うもの。</p>	<p>管理栄養士免許取得に際して、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識および技能を修得させることを目的として実習を行うもの。</p>	<p>小学校又は中学校の教員免許状を取得しようとする者を対象に、教員が個人の尊厳および社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性に鑑み、教員の資質向上および学校教育の一層の充実を図る観点から、特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間の体験を行うもの。</p>	<p>大学で学んだ知識・技術をもとに、医療・介護・福祉の現場における活動の見学や援助を通して、養護教諭としての必要なケアの視点や能力を養う。また、実習体験を通して個人を尊重した対象者とのかかわりの基本と健康や健康障害、発達段階や発達課題に対する支援能力を養うために実習を行うもの。</p>

【 九州女子大学】

(人数)

実習名	学科・専攻名	学校種別等	1年	2年	3年	4年
教育実習	人間生活学科	中学校 高等学校				18
	栄養学科	小学校				8
	人間発達学科 人間発達学専攻	幼稚園		40	38	
		小学校		40	5	
	人間発達学科 人間基礎学専攻	特別支援学校				34
		中学校 高等学校				20
保育実習	人間発達学科 人間発達学専攻	保育所	0	33	44	2
		児童養護施設等			0	39
臨地実習	栄養学科	福祉施設・ 保健所			95	0
		小学校			94	3
		病院			95	0
介護等体験	人間生活学科	特別支援学校 社会福祉施設		21	3	0
	人間発達学科 人間発達学専攻			50	2	0
	人間発達学科 人間基礎学専攻			19	0	

【 九州女子短期大学】

(人数)

実習名	学科・課程名	学校種別等	1年	2年
教育実習	子ども健康学科 幼稚園教諭養成課程	幼稚園	48	39
	子ども健康学科 養護教諭養成課程	小学校・中学校 高等学校		45
	専攻科 子ども健康学専攻	小学校・中学校 高等学校		26
保育実習	子ども健康学科	保育所	67	55
		児童養護施設等	71	11
臨床実習	子ども健康学科 養護教諭養成課程	病院・福祉施設		44

参考資料

I. 地域教育実践研究センターの各種委員会構成員

地域教育実践研究センター運営委員会		地域教育実践研究センター外部評価委員会	
内村 尚俊	地域教育実践研究センター 所長 人間科学部心理・文化学科 教授	内村 尚俊	学内委員 地域教育実践研究センター 所長
岡部 憲宗	地域教育実践研究センター 副所長 事務局長	岡部 憲宗	学内委員 地域教育実践研究センター 副所長
中島 久代	教務部長 人間科学部児童・幼児教育学科 教授	矢野 健太	学外委員 芦屋町役場 企画政策課企画係 係長
蒲原 路明	学生部長 人間科学部児童・幼児教育学科 教授	田中 尚哉	学外委員 水巻町役場 総務課庶務係 主任
田中 由美子	家政学部生活デザイン学科 教授	能美 育恵	学外委員 北九州商工会議所 専門相談部 部長
巴 美樹	家政学部栄養学科 教授	成重 純一	学外委員 北九州市立高須小学校 校長
堺 正之	人間科学部児童・幼児教育学科 教授	大塚 友江	学外委員 北九州市小倉社会事業協会 評議員
押岡 大覚	人間科学部心理・文化学科 教授	安藤 進一	学外委員 協同組合折尾商連 理事長
貞方 聖恵	子ども健康学科 講師	巴 美樹	学内委員 家政学部栄養学科 教授
仲間 和奏	地域教育実践研究センター 主事補	堺 正之	学内委員 人間科学部児童・幼児教育学科 教授
		貞方 聖恵	学内委員 子ども健康学科 講師
		仲間 和奏	地域教育実践研究センター 主事補

II. 地域教育実践研究センターの運営委員会等年間実績

月	学内委員会等	外部との会議等
4月		
5月		10日 芦屋町との連携会議 17日 北九州市との連携会議
6月	27日 第1回地域教育実践研究センター運営委員会	10日 中間市との連携会議
7月		
8月		
9月		
10月	17日 第1回地域教育実践研究センター外部評価委員会	
11月	21日 第2回地域教育実践研究センター運営委員会 (メール会議)	
12月		
1月		
2月		
3月	6日 第2回地域教育実践研究センター外部評価委員会 26日 第3回地域教育実践研究センター運営委員会 (メール会議)	

III. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告

令和6年度は、第1回地域教育実践研究センター外部評価委員会を令和6年10月17日に開催し、令和5年度の連携事業の実績報告、令和6年度の連携事業の進捗を共有・確認した。また、第2回地域教育実践研究センター外部評価委員会を令和7年3月6日に開催し、令和6年度の連携事業の実績報告、令和7年度の連携事業計画を共有・確認した。

学外委員	意見	
芦屋町	第1回委員会 (R6. 10. 17開催)	昨年度、スーパーキャラバン隊や土曜学び合いルームの事業では大学・短大の学生の力を借りて実施ができた。学生のためになっているのかという不安もあったが、報告書を見る限り、経験として活きているようで嬉しい。地域交流サロンおよび公民館講座は高齢者から学び直しの機会として大変好評であるため、今年度もぜひお願いしたい。
	第2回委員会 (R7. 3. 6開催)	地域からの要望に応えて大学教員の講座を開講してもらえて本当にありがとうございます。巴先生の講座は毎年町民から大盛況である。サロン事業では地域の活動を通して人材育成に繋げていきたい。キャラバン隊は昨年度までコロナウイルスの影響で実施できていなかったが、今年は久しぶりに実施でき、子どもたちがとても喜んでいた。また、大学から、「学生にとっても学びの場となった」と言ってもらえて嬉しい。古木先生の祖父母学級も毎年大盛況。今年も実施できて嬉しい。学び合いルームは、今年で実施23年を迎えた。学生の力なくしては実施できないのでとても感謝している。
水巻町	第1回委員会 (R6. 10. 17開催)	今年度は正式な連携会議を実施できていない。クリスマスイルミネーション事業で学生の舞台出演を調整中である。 連携事業として今年度は防災の取り組みが難しいとのことなので、それ以外での取り組みを考えているところ。一緒にできることがあれば協力をお願いしたい。
	第2回委員会 (R7. 3. 6開催)	今年は、クリスマスイルミネーション事業が実施できず残念だった。今後は、防災や消防関連に取り組みたいと考えている。
北九州商工会議所	第1回委員会 (R6. 10. 17開催)	就職活動の早期化に伴って春季のインターンシップが過疎化している。その状況の中、6年度は九州女子大学が参加率1位であった。地元就職を後押しするものである商工会議所主催の情報交換会などを通して、今後も連携しながら就職の支援やインターンシップ事業に取り組んでいきたい。
	第2回委員会 (R7. 3. 6開催)	「人材確保」が重要な課題である。これからは、コネクト北九州(学生・企業・まちを繋ぐ)という取り組みで、企業の採用力や情報発信力を強化し、企業と学生の接点を多様化していきたいと考えている。
北九州市立小学校	第2回委員会 (R7. 3. 6開催)	グリーンティーチャーなど現場を見る貴重な機会が増えている。最近はICTを使った授業に取り組んだり、2学期制化が進むことで通知表を作成する機会が減ったり、通知表の所見を書くのが年度末のみになったりと、学校が変化してきている。柔軟な心をもって、ICTや学校の変化に対応できるような学生が求められる。
北九州市 小倉社会事業協会	第1回委員会 (R6. 10. 17開催)	協会としては、ボランティアや実習を通して大人との人間関係を築いていく力を伸ばしていきたい。また、学生の就職先として今後はさらに大学や短大とのやり取りを深めていきたい。巴教授の取り組みを聞き、防災についても今後連携したいと感じた。
	第2回委員会 (R7. 3. 6開催)	九州女子大学・短期大学は、キャラバン隊など積極的に活動している印象がある。実践的な活動は学生の力になり、就職にも繋がる。学生ボランティアを受け入れたことがあるが、学生時代に職業体験を持つのは大事。職員にとつても良い刺激になる。
協同組合折尾商連	第1回委員会 (R6. 10. 17開催)	折尾まつりが地元住民から評価いただいているので来年度以降も密接に連携していきたい。また、折尾イルミネーションの実行委員として九州女子大学の学生が企画段階から参加しており助かっている。 今後は、折尾まちづくりとして区画整備やタウンマネジメントを進めていくので協力をお願いしたい。商連は、「おりお未来21協議会」を設置し、住民側の意思決定機関として行政と連携していく予定。
	第2回委員会 (R7. 3. 6開催)	折尾商連や、二三会など、民間との連携事業にも取り組んでくれてありがたい。折尾まつりについては、次年度は6/7・8に開催予定である。他にも駅前マルシェやオリオンピック、堀川清掃、イルミネーション、折尾バル等たくさん取り組んでいきたいと思っている。

IV. 協定先一覧

本学は以下のとおり、自治体、企業、大学、および団体等と協定を締結している。これらの協定に基づき、外部組織と様々な連携事業に取り組んでいる。

協定先	協定名	締結日
北九州市	北九州市放課後児童クラブの振興に関する連携協定	平成25年9月1日
芦屋町	本学と芦屋町との包括的地域連携に関する協定	平成28年3月29日
北九州商工会議所	本学と北九州商工会議所との連携に関する協定	平成28年6月7日
水巻町	本学と水巻町との包括的地域連携に関する協定	平成31年4月17日
青森県立保健大学	青森県立保健大学と九州女子大学におけるベトナム国ナムディン看護大学及び国立栄養研究所との交流活動に係る連携・協力に関する協定	令和元年7月31日
味の素株式会社 九州支社	本学と味の素株式会社の包括的連携に関する協定	令和2年3月3日
不二製油株式会社	本学と不二製油株式会社の包括的連携に関する協定	令和2年4月1日
株式会社えん・コミュニケーションズ	本学と株式会社えん・コミュニケーションズの包括的連携に関する協定	令和2年8月3日
折尾二三会	本学と折尾二三会の包括的連携に関する協定	令和2年8月3日
学校法人能美学園 星琳高等学校	本学と学校法人能美学園星琳高等学校の高大連携協定	令和5年3月14日
福岡県立西田川高等学校	連携教育に関する協定	令和6年1月19日
中間市	本学と中間市の包括的連携に関する協定	令和6年7月21日
福岡県立ひびき高等学校	連携教育に関する協定	令和6年10月11日

V. 講師派遣実績一覧

No.	所属	派遣者	派遣内容	派遣日	依頼組織
1	家政学部 栄養学科	巴 美樹	日本医師会認定産業医 生涯研修単位認定講習会	R6. 9. 29	一般社団法人 西日本産業衛生会
2	家政学部 栄養学科	巴 美樹	東田塾セミナー	R6. 10. 1 R6. 10. 24 R6. 10. 31	一般社団法人 西日本産業衛生会
3	子ども健康学科	菊地 由紀子	子育て応援サロン	隔月1回 第2土曜	社会福祉法人 犬山町 社会福祉協議会
4	家政学部 栄養学科	巴 美樹	輝け!!おとなフェス~今からずっと、これからもっとageless life	R6. 4. 17	HHK-Labo合同会社
5	人間科学部 児童・幼児教育学科	鳴海 正也	大阪府保育士等キャリアアップ研修	R6. 7. 13	一般財団法人保険福祉 振興財団
6	人間科学部 児童・幼児教育学科	蒲原 路明	わくわくサイエンスフェスタ2024(春)	R6. 5. 5	北九州市科学館普及課
7	人間科学部 児童・幼児教育学科	松本 真理子	キャリアアップ研修会	R6. 8. 8	北九州市保育士会
8	子ども健康学科	子安 崇夫	保育士研修会	R6. 6. 29	山口県保育協会 柳井支部
9	家政学部 栄養学科	巴 美樹	食育講演会	R6. 6. 14	上毛町子ども未来課
10	子ども健康学科	子安 崇夫	運動遊び教室	R6. 5. 28~R7. 3	九州女子大学付属 鞍手幼稚園
11	家政学部 栄養学科	巴 美樹	西日本新聞読者向けイベント 「ファン北トークライブ」	R6. 6. 25	西日本新聞社

V. 講師派遣実績一覧

No.	所属	派遣者	派遣内容	派遣日	依頼組織
12	子ども健康学科	宮嶋 晴子	社会教育主事講習	R6. 8. 7	国立大学法人 九州大学
13	人間科学部 児童・幼児教育学科	今津 尚子	父母の会講演会	R6. 6. 5	学校法人愛光学園
14	家政学部 生活デザイン学科	田中 由美子	広島県消費生活審議会	R6. 7. 2	広島県消費生活課
15	人間科学部 児童・幼児教育学科	鳴海 正也	福岡県保育士等キャリアアップ研修	R6. 8. 26	一般財団法人 保険福祉振興財団
16	子ども健康学科	吉田 浩一	不祥事防止研修	R6. 7. 19	中間市立中間北小学校
17	人間科学部 児童・幼児教育学科	姉崎 弘	夏季研修会	R6. 8. 20	岐阜県立岐阜希望ヶ丘 特別支援学校
18	人間科学部 心理・文化学科	三浦 拓眞	全日本高等学校書道教育研究会 川崎大会	R6. 8. 7~8. 9	全日本高等学校書道 教育研究会
19	人間科学部 児童・幼児教育学科	今津 尚子	西田川高等学校保護者教師研修会	R6. 9. 21	福岡県立 西田川高等学校
20	人間科学部 児童・幼児教育学科	鳴海 正也	障害児保育研修	R6. 8. 30 R6. 9. 3	山口県 社会福祉協議会
21	子ども健康学科	吉田 浩一	直方市立植木小学校校内研修	R6. 7. 25	直方市立植木小学校
22	人間科学部 児童・幼児教育学科	鳴海 正也	大阪府保育士等キャリアアップ研修	R6. 10. 19	一般財団法人保険福祉 振興財団
23	子ども健康学科	宮嶋 晴子	家庭教育支援者養成講座	R6. 7. 18 R6. 8. 7	愛媛県教育委員会
24	子ども健康学科	宮嶋 晴子	八幡西区家庭教育講演会	R6. 9. 4	八幡西区役所 コミュニティ支援課長
25	人間科学部 児童・幼児教育学科	鳴海 正也	夏の野外教育活動の指導	R6. 8. 3~8. 11	NPO法人山梨幼児野外 教育研究会
26	人間科学部 心理・文化学科	関 洋輔	合同IR研修会	R6. 9. 13	中京学院大学
27	家政学部 栄養学科	井上 由紀	福岡県栄養改善学会研究発表	R6. 10. 20	公益社団法人福岡 栄養士会
28	人間科学部 児童・幼児教育学科	松本 真理子	教職員研修	R6. 9. 30	北九州市教育委員会
29	人間科学部 児童・幼児教育学科	今津 尚子	子ども支援ボランティア養成講座	R6. 9. 9	宗像市
30	人間科学部 児童・幼児教育学科	木村 葉太	職階別中央研修	R6. 9. 12	教職員支援機構
31	家政学部 栄養学科	巴 美樹	北九州市保健所運営協議会	R6. 10. 3	北九州市
32	家政学部 生活デザイン学科	田中 由美子	広島県消費生活審議会	R6. 10. 22	広島県消費生活審議会
33	人間科学部 児童・幼児教育学科	鳴海 正也	東京都保育士等キャリアアップ研修	R6. 11. 9 R6. 12. 24 R7. 2. 22	一般財団法人 保険福祉振興財団
34	人間科学部 児童・幼児教育学科	鳴海 正也	高槻市保育士等キャリアアップ研修	R7. 2. 1	一般財団法人 保険福祉振興財団

V. 講師派遣実績一覧

No.	所属	派遣者	派遣内容	派遣日	依頼組織
35	人間科学部 児童・幼児教育学科	木村 葉太	研究会の研修会	R6. 12. 9	八女市小学校 義務教育学校 前期教育研究会
36	子ども健康学科	宮嶋 晴子	GO!GO!健康づくり交流会	R7. 1. 31	八幡西区役所 保健福祉課
37	家政学部 生活デザイン学科	田中 由美子	広島県消費生活審議会	R6. 12. 24	広島県消費生活審議会
38	人間科学部 児童・幼児教育学科	木村 葉太	熊本県学校事務研究大会	R7. 1. 17	熊本県学校事務研究 協議会
39	人間科学部 児童・幼児教育学科	今津 尚子	八幡西区私立教師研修会	R7. 1. 20	八幡西幼稚園連盟
40	人間科学部 心理・文化学科	矢崎 美香	本の内容づくりワークショップ	R7. 1. 26 R7. 2. 9	北九州市教育委員会 次世代教育推進課
41	人間科学部 児童・幼児教育学科	城 佳世	卒業式における歌唱指導	R7. 2. 25 R7. 3. 6	飯塚市立伊規須小学校
42	人間科学部 児童・幼児教育学科	姉崎 弘	スヌーズレン実践研究	R7. 2. 5	医療法人社団春日会
43	人間科学部 児童・幼児教育学科	城 佳世	秋田市音楽教育研究水曜研究会	R7. 2. 5	秋田市音楽教育研究会
44	家政学部 栄養学科	巴 美樹	日本医師会認定産業医生涯研修 単位認定講習会	R7. 6. 29 R7. 8. 30	一般社団法人 西日本産業衛生会
45	子ども健康学科	子安 崇夫	放課後児童支援員等研修会	R6. 6. 24	北九州市
46	家政学部 栄養学科	巴 美樹	地域交流サロン公開講座	R7. 2. 3 R7. 2. 5	芦屋町
47	家政学部 栄養学科	井上 由紀	地域交流サロン公開講座	R7. 2. 17	芦屋町
48	子ども健康学科	貞方 聖恵	キャラバン隊による模擬保育	R7. 1. 8	芦屋町
49	人間科学部 心理・文化学科	古木 誠彦	公民館講座	R7. 3. 5 R7. 3. 6 R7. 3. 8	芦屋町

VI. 行政の審議会等委員委嘱実績一覧

No.	所属	氏名	委嘱内容	就任期間	依頼組織
1	人間科学部 児童・幼児教育学科	萬徳 紀之	水巻町子ども・子育て会議委員	R6. 4. 1～R8. 3. 31	水巻町
2	人間科学部 心理・文化学科	内村 尚俊	新時代に対応した高等学校改革推進 事業委員	R6. 4. 1～R7. 3. 31	八幡高等学校
3	人間科学部 心理・文化学科	矢崎 美香	「目録システム書誌作成研修」企画 ワーキンググループメンバー	R6. 4. 1～R7. 3. 31	国立情報学研究所
4	人間科学部 心理・文化学科	鍋田 智広	学校評議員	R6. 4. 1～R7. 3. 31	北九州高等学園
5	家政学部 生活デザイン学科	富山 祐信	レトロなでしこ運営委員会	R6. 4. 1～R7. 3. 31	レトロなでしこ運営 実行委員会
6	家政学部 栄養学科	濱崎 朋子	曹宇評価競争方式審査委員会 委員	R6. 5～	北九州市保健 福祉局

VI. 行政の審議会等委員委嘱実績一覧

No.	所属	氏名	委嘱内容	就任期間	依頼組織
7	人間科学部 心理・文化学科	鄭 俊如	芦屋町地域創生推進委員会委員	R6. 8. 4～R8. 8. 3	芦屋町
8	家政学部 栄養学科	巴 美樹	芦屋町ブランド金賞選定審査会 委員	R6. 7～R8. 3. 31	芦屋町
9	人間科学部 児童・幼児教育学科	松本 真理子	北九州市・新ビジョン推進会議 構成員	R6. 10. 1～R7. 3. 31	北九州市
10	人間科学部 心理・文化学科	江口 恵子	北九州市環境ミュージアム指定 管理者検討会構成員	R6. 10. 1～R11. 9. 30	北九州市環境局
11	家政学部 栄養学科	瀬寄 朋子	北九州市健康づくり推進会議 構成員	R6～R9. 3. 31	北九州市保健 福祉局
12	家政学部 栄養学科	井上 由紀	北九州市学校給食調理等業務 委託業者選考委員会委員	R6～	北九州市教育 委員会
13	人間科学部 児童・幼児教育学科	堺 正之	福岡県豊かな心育成推進会議委員	R6. 11. 1～R7. 3. 31	福岡県教育委員会
14	子ども健康学科	宮嶋 晴子	次期北九州市生涯学習推進計画策定 等に関する有識者会議委員	R7. 2. 10～R8. 3. 31	北九州市総務 市民局
15	子ども健康学科	住田 実	「健康かべ新聞コンクール」審査委員長	R7. 2. 13	西日本新聞
16	人間科学部 心理・文化学科	内村 尚俊	芦屋町住民参画推進会議委員	R6. 11. 1～R7. 3. 31	芦屋町

編集後記

本誌は、令和6年度に九州女子大学・九州女子短期大学、及び地域教育実践研究センターで実施した地域連携事業を皆様にご報告するため、発行いたしました。

令和2年度から4年度までは、新型コロナウィルス感染症の影響により、事業内容に応じて内容を工夫し、変更を加えながら対応してきましたが、令和5年度からは、徐々に諸事業を本格的に再開し、令和6年度は、特に地域における公開講座や児童・幼児の教育を目的とする学生派遣、産業界との連携事業を強化し、本学の教育・研究機能を活用した地域貢献に努めました。また組織的に連携事業の客観性を担保しつつ、一層の改善に資するため、令和6年度においても外部評価委員会を実施して、地域や外部の方々の意見を頂戴することで、公正な自己点検の上で更なる取組みの充実に努めてきました。

本誌を契機として、皆様と新たな連携事業を実施できることを期待するとともに、本学の地域連携活動、及び地域貢献活動の更なる発展を目指してまいります。

地域教育実践研究センター 所長 内村 尚俊

令和6年度 地域連携事業報告書

発行：令和7年10月1日

編集：学校法人福原学園 九州女子大学・九州女子短期大学
地域教育実践研究センター

〒807-8586 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1

Tel : 093-693-3134 Fax : 093-603-6453

E-mail : chiiki-c@fains.jp

